

岩手県文化財調査報告書第82集

岩手県中世城館跡 分布調査報告書

1986.3

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第82集
正誤表

頁	城館名	行	誤	正	頁	城館名	行	誤	正
3		下から	8	11地区	12	中館	上から	11	堅堀
//	(表中)	上から	8	相沢村	町	153	(左)〃	20	託記
9		(左)下から	19	堅穴	堅	//	(右)下から	6	氏に岩
11		(右)〃	11	耕	頃	//	(右)上から	15	參連
20	川口城		腰部1	郭	//	(〃)下から	19	小深川	梁
30	胡四王館		空掘	堀	160	(〃)	10	堀立柱	掘
37	八方丁		八方丁	方八	167	上から	1	六日城	六日入城
43	玉崎館		中減?	減	173	鹿合館	//	明沢郡	胆
50	瀬原櫓		和記	話	181	赤荻城	//	赤荻字宿	
54	横城		とし2町	て	182	下黒沢城	//	平場はは	はを取る
67	上野館		の基の	墓	//	〃	12	四方に	で
69	笠間館		結の城	詰	193	二桜館	//	堀られ	掘
74	箱石沢館		腰腰2	郭	194		〃	〃	リ
88		(左)上から	8	万八丁	方	198	(左)〃	20	ものが諸
//		(〃)〃	9	の陳	陣	199	千厩城	上から	か
90		(左)下から	4	縁細瓦	軸	202	鳥崎館	//	土千厩
92		(〃)上から	20	両辺を	西	219	布佐館	//	土を取る
93	湯の館	上から	10	平坦面	坦	224	末崎城	//	が
97	大館	下から	7	急崖さる	とな	226	古館	下から	線を走
103		(右)上から	5	こと三	二	234	(左)上から	8	東北
106		(〃)〃	13	平坦地	坦	240	火渡館	上から	西
109		(〃)〃13,16,20		堀立柱	堀	248	船越御所	//	北沢
111		(左)下から	8	薬研城	堀	254	(右)下から	15	北に沢
//		(右)上から	19	灰納	軸	261	中輪館	上から	新族
130	毒沢館	上から	7	接断	折	280	中里館	//	親
131		〃	11	堅堀	堅	282	大清水館	下から	接
134	相去城	下から	9	主郭掘	堀	//	高家館	//	線
136		(右)〃	2	任置	仕	286		6	重堀
142		上から	5	掘主柱	立			3	基

岩手県中世城館跡

分布調査報告書

1986.3

岩手県教育委員会

序

本県には、国指定の盛岡城跡をはじめ、数多くの城跡や館跡があり、県民に親しまれています。

これらの城館は、歴史の進展に伴い、そのほとんどが廃墟と化し、栄枯盛衰の姿のみをとどめておりますが、しかし、その中には、往時の人々の歴史や文化を知る貴重な手がかりが秘められており、私たちにとって、かけがいのない大切な文化財となっております。

また、これらの城館跡の中には、史跡公園として整備され、歴史へのふれ合いの場として、あるいは地域の人々の憩いの場として、生かされ、活用されている所もありますが、近年における開発事業の進展は、城館跡にも波及するようになり、保護の対策が課題となっております。

県教育委員会は、このような状況に対処し、城館跡の周知と保護の促進を図るため、文化庁の補助を得て、県下全域を対象として、中世の城館跡を中心に、古代の城柵跡から近世の居館跡まで、現地踏査による総合分布調査を実施し、その成果を、報告書としてまとめました。

この報告書は、現地調査から資料の収集、整理にいたるまで、昭和57年度以来4年の歳月をかけて作成刊行されたものであります。この間、調査指導員の先生方をはじめ、調査員、地区調査員の方々、さらに、市町村教育委員会の多大のご指導、ご協力を得て刊行の運びとなったものであります。

ここに、関係者の方々に衷心から感謝申し上げます。

本報告書が、古里の歴史を解明する手がかりとして、また、地域を理解する資料として、できるだけ多くの県民にご覧いただき、広く活用されることを願ってやみません。

昭和61年3月

岩手県教育委員会

教育長 中島孝助

例　　言

1. 本書は、岩手県教育委員会が国庫補助金の交付をうけ、昭和57年度から60年度の4ヶ年にわたり実施した「岩手県中世城館跡調査事業」の報告である。
2. 調査は岩手県教育委員会が主体となり、別に委嘱した調査指導員、調査員、地区調査員を中心として、各市町村教育委員会の協力のもとに実施した。
3. 調査対象は、本県内に所在する古代から中世末期までの城館跡を中心としたが、一部に近世の城郭も加えた。
4. 各城館跡の名称は、原則として文献に見えるものを採用した。古文献に見えないものは地元の通称にしたがい、それも欠くものは小字名等を参照して、便宜的に命名したものもある。
5. 調査にあたっては、古文書、古記録、地誌類、県市町村史、字切図、地籍図、古絵図、伝承、諸先学の研究業績等を活用するよう努めた。
6. 本調査事業の成果の詳細（調査カード等）は、岩手県教育委員会事務局文化課において保管している。
7. 本書は、(1)関係特論、(2)地区概観、(3)城館跡一覧表、(4)城館跡個別記述、(5)分布図から構成されている。
 - (1) 関係特論は、本県における古代末期から中世終末期までの城館研究成果のうちから、今後のこの分野の研究に資すると思われるテーマを選択してある。それは歴史の大勢、研究上の留意点、遺物類に係るものである。
 - (2) 地区概観は、11地区の歴史的背景と、城館跡の分布状況について略述している。11地区は、教育事務所の所在地区によつたものである。それは歴史的背景と大略一致する区分である。
 - (3) 城館跡一覧表は、各城館跡の概要を把握できる項目立てとした。なお、近世文書との対照の便を考慮し、江戸時代以降の村名等を行政変遷欄に示すこととした。
 - (4) 城館跡個別記述は、比較的保存状況良好なものの概述と、当該地区の歴史に重要な位置を占めるもの、あるいは発掘調査が実施されて、その内容が明らかになっているものの詳述の二種とした。
 - (5) 分布図は、20万分の1地形図に位置と番号を示した。なお、個別記述部分にも位置は示してある。
8. 本書の執筆分担は次のとおりである。なお、これが同時に昭和60年度の調査体制ともなっている。

区分	氏　名	執　筆　内　要
調査指導員	草間俊一 司東真雄	岩手県の古代・中世の政治動向 城・関・館について
調　査　員	本堂寿一 昆野靖 小田野哲憲 伊藤博幸 熊谷常正 工藤武 中村良幸 佐々木勝 高田和徳 関豊 畠山篤雄	岩手県城館跡の一類型 一いわゆる蝦夷館について 北上・和賀地区概観、北上市、和賀町、湯田町、江釣子村、沢内村 岩手県内城館跡出土の陶磁器類について 紫波地区概観、盛岡市、季石町、紫波町 岩手地区概観、岩手町、葛巻町、西根町、玉山村、滝沢村、胆沢村、衣川村、野田村 胆江地区概観、水沢市、前沢町、金ヶ崎町 気仙地区概観、松尾村、都南村、花泉町、東山町、室根村、大船渡市、陸前高田市 西磐井地区概観、一関市、平泉町 稗貫地区概観、花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町 下閉伊地区概観、矢巾町、宮古市、山田町、岩泉町、田老町、田野畑村、新里村、川井村 二戸、九戸地区概観、種市町、山形村、大野村、一戸町、軽米町、九戸村 久慈市、普代村、二戸市、淨法寺町、安代町 東磐井地区概観、千畠町、大東町、藤沢町、川崎村 上閉伊地区概観、釜石市、遠野市、大槌町、宮守村、江刺市、住田町、三陸町
	岩手県教育委員会事務局文化課	

調査の方法

調査は本県内に所在する城館跡を、周知の埋蔵文化財包蔵地として全県を網羅的、かつ統一的に把握することを目的として「岩手県中世城館跡調査実施要項」に基き実施した。「調査要項」は次のとおりである。

岩手県中世城館跡調査実施要項

1. 調査目的 本県には、国指定史跡九戸城跡をはじめとする多数の中世城館跡が残存しているが、近年ではこれら城館跡に係る開発行為が多発し、その保存に重大な懸念が生じている。本調査はこれらの遺跡について、その周知徹底と保護対策をたてることを目的とし、総合的な調査を行うものである。
2. 調査計画の概要
 - (1) 調査主体者 岩手県教育委員会
 - (2) 調査協力機関 各市町村教育委員会
 - (3) 調査期間 昭和57年～60年度
 - (4) 調査対象地区 県内全域
第一次（57年度）岩手・紫波、稗貫、二戸各教育事務所管内
第二次（58年度）和賀、胆江、西磐井、東磐井各教育事務所管内
第三次（59年度）気仙、上閉伊、下閉伊、九戸各教育事務所管内
第四次（60年度）補足調査、調査報告書刊行
3. 調査方法 調査員を委嘱し、下記の事項について遺跡の調査を実施する。
 - (1) 調査対象 館、砦、要害、櫓、物見台、烽火台等
 - (2) 調査内容 ① 城館跡等に関する資料の収集
② 城館跡の所在確認
③ 城館跡の規模・残存状況等の臨地調査
4. 調査結果のまとめ
 - (1) 調査カードに記録し、県教委が集約する。
 - (2) 報告書は60年度に作成し、内容は概ね調査カードの記入項目に準ずる。
5. 調査員 調査指導員と調査員は文化課で選任し、地区調査員は市町村教育委員会の推薦により、それぞれ岩手県教育委員会教育長が委嘱する。
6. 費用の支弁 調査員が調査に従事した場合、謝金および旅費を予算の範囲内で支給する。

調査内容は「岩手県中世城館総合調査カード」に記入し記録化した。カードの様式は次に示したとおりである。参考までに調査項目を書き出しておく。

名称（別称）、所在地（行政変遷）、立地、地目、所有関係、残存状況、指定関係、他の法律との関係、予想される開発計画、管理状況、破損状況、残存する遺構の種別、地籍図上の特色、研究史（論文、地方史関係文献等）、史料、伝承、地名（大字、小字）、遺物、交通路、市場等、手工業関係、農業関係、宗教・信仰関係、集落との関係、関連城館、古戦場、築城者、築城時期、存続期間、主要居住者（変遷）、築城から廢城までに加えられた変化、主な事件、機能（性格、軍事的側面、日常生活的側面）、位置図、略測図（歩測図）、写真
資料不足から記入不能の項目も多いと思われたが、可能な限り収集に努めることとした。

卷之三

卷之三

卷之三

1

Days	Control (g)	10% sucrose (g)	20% sucrose (g)	30% sucrose (g)
0	0.5	0.5	0.5	0.5
2	1.0	1.0	1.0	1.0
4	1.5	1.5	1.5	1.5
6	2.0	2.0	2.0	2.0
8	2.5	2.5	2.5	2.5
10	3.0	3.0	3.0	3.0
12	3.5	3.5	3.5	3.5
14	4.0	4.0	4.0	4.0
16	4.5	4.5	4.5	4.5
18	5.0	5.0	5.0	5.0
20	5.5	5.5	5.5	5.5

卷	章	节	标题
一	一	一	一、前言
一	二	一	二、方法与数据
一	三	一	三、结果与讨论
一	四	一	四、结论
二	一	一	一、引言
二	二	一	二、方法与数据
二	三	一	三、结果与讨论
二	四	一	四、结论
三	一	一	一、引言
三	二	一	二、方法与数据
三	三	一	三、结果与讨论
三	四	一	四、结论

年	月	日	曜	天候	気温	風向	風速	湿度	降水	現象	備考
2011	11	11	木	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	12	金	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	13	土	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	14	日	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	15	月	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	16	火	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	17	水	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	18	木	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	19	金	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	20	土	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	21	日	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	22	月	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	23	火	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	24	水	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	25	木	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	26	金	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	27	土	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	28	日	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	29	月	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	30	火	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s
2011	11	31	水	晴	15~25	北	弱	60%	0mm	風速0.5m/s	風速0.5m/s

昭和57年度調査員及び調査担当地区一覧

	氏名	調査担当地区		氏名	調査担当地区
調査指導員	草間俊一 司東真雄	調査地区全域 ※	地区調査員	永井勝栄 久保田正信 木下伝次郎	軽米町 九戸村 葛巻町
調査員	昆野靖 八木光則 佐藤和男	(紫波町、滝沢村) (盛岡市、零石町) (矢巾町、都南村)		田口方三 高橋忠義 伊藤清造 太田忠雄 小島侠 川崎義仲 川村迪雄 阿部三夫 菊池邦雄 照井弘道 小田島留吉	浄法寺町 松尾村 西根町 玉山村 滝沢村 零石町 紫波町 矢巾町 石鳥谷町 花巻市 東和町
	本堂寿一 中村良幸	(花巻市、石鳥谷町) (大迫町、東和町)			
	高橋昭治 小田野哲憲 熊谷當正	(岩手町、西根町) (玉山村)			
	高橋信雄 高田和徳	(軽米町、九戸村) (一戸町、葛巻町)			
	四井謙吉 関豊	(二戸市、安代町) (浄法寺町、松尾村)			

昭和58年度調査員及び調査担当地区一覧

	氏名	調査担当地区		氏名	調査担当地区
調査指導員	草間俊一 司東真雄	調査地区全域 ※	地区調査員	藤田仁 藤原利雄 千葉周秋 後藤幸喜 鈴木透 菅原峯治 渡辺正巳 加藤進一 小野寺一郎 熊谷肇 及川文雄 石田末男	沢内村 湯田町 金ヶ崎町 江刺市 前沢町 衣川村 花泉町 大東町 東山村 室根村 川崎村 藤沢町
調査員	本堂寿一 稻野裕介	(北上市、金ヶ崎町) (江刺市)			
	八重櫻良宏 高橋文明	(和賀町、沢内村) (江釣子村、湯田町)			
	伊藤博幸 瀬川司男	(水沢市、藤沢町) (胆沢町)			
	本沢慎輔 工藤武	(平泉町、衣川村) (一関市、花泉町)			
	熊谷常正 畠山篤雄 村上光一	(東山町、大東町) (千厩町、室根村) (川崎村、藤沢町)			

昭和59年度調査員及び調査担当地区一覧

	氏名	調査担当地区		氏名	調査担当地区
調査指導員	草間俊一 司東真雄	調査地区全域 ※	地区調査員	長谷川時次郎 北田博 斎藤英樹 武田将男 佐藤仁志 菊池義彦 田沢直志 佐々木哲夫 田鎖洗馬 芳門留次郎 武山利一 菊池春雄 荻野春馨 花石公夫 水原義人 鈴木満広 村上重吉 根来功範 片山三郎	大野村 普代村 古市 山田町 岩泉町 田老町 田野畠村 新里村 川井村 釜石市 武山市 遠野市 大槌町 大宮守村 大船渡市 陸前高田市 住田町 三陸町
調査員	関豊 高田和徳 昆野靖 佐々木勝 本堂寿一 中村良幸 畠山篤雄 村上光一 高橋信雄 小田野哲憲 熊谷常正	(久慈市、種市町) (野田村) (山形村、大野村) (川井村、新里村) (普代村、宮古市) (山田町、宮守村) (釜石市、遠野市) (大船渡市、陸前高田市) (岩泉町、田老町) (田野畠村、大槌町) 住田町、三陸町			
地区調査員	沢里金五郎 野田松雄 小田正年 清水隆二	久慈市 種市町 野田村 山形村			

調査の結果

4ヶ年の調査によって下表のとおりの城館跡を確認できた。

確認城館数

57年度			58年度			59年度		
市町村	既知ヶ所	確認ヶ所	市町村	既知ヶ所	確認ヶ所	市町村	既知ヶ所	確認ヶ所
盛岡市	20	27	北上市	62	68	大船渡市	11	11
岩手町	17	12	和賀町	16	22	陸前高田市	22	55
零石町	20	25	湯田町	8	9	住田町	10	10
葛巻町	25	31	江釣子村	7	8	三陸町	8	10
西根町	12	9	沢内村	9	14	釜石市	9	15
玉山村	33	36	水沢市	33	38	遠野市	41	45
滝沢村	4	7	江刺市	82	80	大槌町	3	7
松尾村	8	7	前沢町	15	17	宮守村	15	25
紫波町	46	51	金ヶ崎町	20	17	宮古市	32	30
矢巾町	8	10	胆沢町	17	16	山田町	20	22
都南村	11	11	衣川村	12	10	岩泉町	11	10
花巻市	30	30	一関市	45	44	田老町	1	5
大迫町	34	29	平泉町	14	31	田野畠村	7	5
石鳥谷町	21	36	花泉町	42	48	新里村	9	17
東和町	20	22	千厩町	34	52	川井村	9	13
二戸市	25	26	大東町	29	47	久慈市	14	16
一戸町	20	23	藤沢町	32	33	種市町	4	15
淨法寺町	16	23	東山町	8	14	野田村	5	8
安代町	13	15	室根村	18	21	山形村	13	13
軽米町	20	32	川崎村	11	15	大野村	12	12
九戸村	9	17				普代村	5	2
計	412	479	計	514	604	計	268	346
総計			既知数	1,194		確認数	1,429	

目 次

序
例 言
調査の方法
調査の結果

本 文

(I) 関係特論

岩手県の古代・中世の政治動向	3
城・関・館について	6
岩手県城館跡の一類型	
一いわゆる蝦夷館について	9
城館跡等出土の陶磁器	10
城館跡等出土の穀物類	13

(II) 城館跡一覧表

岩手地区 (19~26)	紫波地区 (26~29)
花巻市・稗貫地区 (29~34)	北上・和賀地区 (35~40)
胆江地区 (40~48)	西磐井地区 (48~53)
東磐井地区 (54~61)	氣仙地区 (61~65)
上閉伊地区 (65~69)	下閉伊地区 (69~74)
九戸地区 (74~77)	二戸地区 (78~84)

(III) 個別記述

(一) 岩手地区概観	87
盛岡市 (88~94)	岩手町 (94~96)
石町 (97)	葛巻町 (98)
～100	西根町 (99)
玉山村 (101~104)	滝沢村 (104)
松尾村 (105)	
(二) 紫波地区概観	106
紫波町 (107~114)	矢巾町 (114~116)
南村 (117~118)	
(三) 花巻市・稗貫地区概観	119
花巻市 (120~122)	大迫町 (123~125)
鳥谷町 (126~129)	東和町 (130~132)
(四) 北上・和賀地区概観	133
北上市 (134~142)	和賀町 (143~147)
湯	

田町 (148)	江釣子村 (148~149)
内村 (150~152)	
(五) 胆江地区概観	153
水沢市 (154~159)	江刺市 (159~164)
前沢町 (165~167)	金ヶ崎町 (168~172)
胆沢町 (172~173)	衣川村 (174)
(六) 西磐井地区概観	175
一関市 (177~184)	平泉町 (185~186)
花泉町 (186~197)	
(七) 東磐井地区概観	198
千厩町 (199~201)	大東町 (201~209)
沢町 (210~213)	東山町 (213~217)
室根村 (215~218)	川崎村 (219~221)
(八) 気仙地区概観	222
大船渡市 (223~225)	陸前高田市 (225~231)
住田町 (232)	三陸町 (232~233)
(九) 上閉伊地区概観	234
釜石市 (235)	遠野市 (236~240)
大槌町 (240~241)	宮守村 (242)
(十) 下閉伊地区概観	243
宮古市 (244~247)	山田町 (247~249)
町 (250)	田老町 (250)
新里村 (250~251)	川井村 (252~253)
(十一) 九戸地区概観	254
久慈市 (255~256)	種市町 (257~258)
野田村 (259~260)	山形村 (261~262)
大野村 (263~265)	普代村 (266)
(十二) 二戸地区概観	267
二戸市 (268~274)	一戸町 (275~281)
浄法寺町 (282~284)	安代町 (284~285)
米町 (285~288)	軽米町 (285~288)
九戸村 (288~290)	
(十三) 岩手県全域概観	291

付図 「岩手県中世城館跡分布図」

縮尺20万分の1 一葉

本 文

(I)

關 係 特 論

岩手県の古代・中世の政治動向

調査指導員 草間俊一

大化改新による天皇を中心とする統一国家の形成に伴って、これまで蝦夷のすみかの道奥として、その開発がなおりにされていた東北地方の開発が積極的に進められることになった。

まず、齊明天皇4(658)年、阿倍比羅夫による秋田方面の経営が始まり、太平洋岸方面の開発では和銅2(709)年に第1回の征討が行われた。その結果、和銅5(712)年には出羽国が置かれ、陸奥国の征討も、開始して15年目の神亀元(724)年には多賀城が建設されるまでになった。

しかし、それ以北の奥地の経営は容易ではなかったもののように、宝亀11(780)年には、漸く覚鰲城が建設される状態であった。この覚鰲城は、その年に起った伊治公啓麻呂の叛乱によって完全に破壊されたらしく、現在もその所在地について、岩手県内に入った所に造られたものか、宮城県内に留まっていたのか不明の状態である。

このような叛乱が起き、蝦夷地の征討が進まない原因は岩手県の胆沢地方が賊奴の奥区に存在することにあるとして、その地方の征討が進められることになり、延暦7年(788)、朝廷は紀古佐美を征東大使として、5万2千人の大兵を以てその征討に当たらせたが、大敗を喫し、紀古佐美はその責任によって任を解かれた。朝廷は延暦10(791)年、新たに征討大使に大伴弟麻呂、副使に坂上田村麻呂を任命して、10万人の大軍で征討に当たらせたが、未だ十分な成果をあげることができなかつたので、延暦16(797)年に坂上田村麻呂を征夷大将軍に任命して、再びその征討に当たらせた。その結果、延暦21(802)年に胆沢城、延暦22(803)年に志和(波)城の築城となって、成果をあげることができた。しかし、奥地には蝦夷の残存するものがあり、その征討が田村麻呂によって計画されたが、実現をみないで中止された。続いて嵯峨天皇弘仁2(811)年、文屋綿麻呂が征夷大将軍として征討に当たり、爾薩体・閉伊2村の賊を征討することによって、その討伐の事業は一応終了した。綿麻呂は志波城の位置が水害を蒙って適当でないというので、徳丹城を新たに築城した。志波城は、前線基地として、規模も機構も鎮守府である胆沢城にまさるとも劣らぬ規模と機構をもっていたが、徳丹城は、その規模も機構も縮小したものとなり、蝦夷地平定の事業も一応完成したことを物語っている。

軍事的な征討の事業の完了に伴って、内治に重点が置かれ、神社や寺院が建立され、僧侶なども派遣されて、この

地方の人心の教化が図られた。また、蝦夷と云われた人々の一部を東国や西国に移住させる一方、関東や中部地方の人々をこの地方に集団移住させて、その開発を促進させることになった。『和名抄』を見ると、郷村名として、磐井郡に丈几・山田・沙沢・仲村・磐井、江刺郡に大井・信濃・甲斐・稿井、胆沢郡に白河・下野・常口・上総・余戸、気仙郡に気仙・大島(高山寺本による)をあげているが、関東・中部地方の人々が移住して村を作っていた一端が知られる。

神社では『延喜式』を見ると、胆沢郡に磐神社・駒形神社・和我御登拝神社(和賀郡の飯豊神社の錯誤であろう)。石手堰神社・胆沢川神社・止止井神社・於呂閉志神社・斯波郡に志賀理和氣神社・気仙郡に理訓許段神社・登奈孝志神社・衣太手神社・磐井郡に配志和神社・櫛草神社・江刺郡に鎮岡神社があげられている。

寺院では、『文徳実録』天安元(857)年6月2日の条に「陸奥国にある極楽寺を定額寺に預ける。」とある。極楽寺は、北上市稻瀬にある国見山極楽寺がそれに当たると考えられている。そのほか、水沢市黒石にある黒石寺に安置されている木造薬師如来坐像には「貞觀4年12月」の胎内墨書銘があり、当時岩手地方で造られた仏像と見られる点から、黒石寺がこの頃作られていたことを物語るものである。

このほか、和賀郡東和町成島の毘沙門天立像と、その脇にある阿弥陀如来立像、伝吉祥天立像なども古い仏像である。これらは、平安時代の初期開拓期に創建された寺院であると考えられる。また、鉈彫りといわれる丸ノミで作った淨法寺町天台寺の諸仏像などについては、種々異見もあるがこの頃のものと考えたい。

北上川や馬渕川の流域の平地や台地一帯に、奈良時代に蝦夷といわれた人々の集落である竪穴住居跡群が存在するが、それ以上に平安時代の竪穴住居跡群の集落も存在することが最近の調査で明らかになった。なお、花巻市の胡四王山の山頂近くに空堀が三重に周らされ、そこにある平安時代の一群の竪穴住居跡群がそれと関係があるものかどうかは興味のあるところである。

平安時代の半頃、中央政治が弛緩し、地方政治が混乱した際に、武士が勃興し、地方に叛乱が続出したが、岩手県には、この時代を代表する「前九年の役」と「後三年の役」の両乱が起り、源氏の武門の棟梁としての名声を高めた。それがその後、曲折はあったが頼朝の武家政治実現への大

きな力となったのである。

「前九年の役（1051～1062）」は、厨川柵を本拠として、衣館以北の北上川・中流域を支配した安倍氏の叛乱であるが、安倍氏はその勢力が強まると、衣闌の以南にも勢力を進出して諸柵を築き朝命に背いた。朝廷は源頼義を陸奥守として、その鎮定に当らせたので、一旦は安倍氏も降伏して叛乱はおさまったが、頼義の任期があけて帰る際に事件が起き、戦乱が再び起った。その平定には、出羽の豪族清原武則の救援があって、漸く戦乱はおさまった。

安倍氏の北上川流域に設けた諸柵の主要なものは、北上川の西岸で、奥羽山脈に發して北上川に流入する支流河川の北岸の台地に、河川を南にひかえた北側に置かれている。つまり、南方からの侵入にそなえたものといえる。それに対し、蝦夷地征討の際に築かれた胆沢城や志波城は、支流河川の南側に設けられ、北方に備える形をとっている。ただし、徳丹城だけは、その必要も無くなっている。

その後、清原氏が出羽の故地とともに安倍氏の支配した奥六郡を支配したが、その一族に内訌が起きたのが「後三年の役（1083～1087）」である。その鎮定は、陸奥守であった源義家によってなされたことが、義家の声望をますます高めたので、朝廷はその声望の高まるのを喜こぼす、この戦乱を私の争いとして、その功に報ゆるところが無かったばかりか、義家の陸奥守の任を解いて無官とした。義家は私財を割いて部下の功に報いたことが、武門の棟梁として源氏の声望を確立することとなった。

「後三年の役」によって、清原氏は自滅したが、その後に抬頭したのが藤原氏で、清衡・基衡・秀衡の三代百年の栄華が実現した。藤原氏の初代清衡は、前九年の役に捕えられて惨殺された藤原経清の子であったが、その母は安倍氏の出身であり、後に清原武則の子武貞の妻となつたので、その連子として清原氏に養なわれ、清原真衡の没後、奥六郡を清原武衡と三分し（武衡が岩手・紫波・稗貫三郡、清衡が和賀・江刺・胆沢三郡）て治めたが、武衡が清衡の勢力を憎んで、その館を急襲して暗殺を企てたことから、また戦乱が勃発した。両者の争いは義家の救援を得た清衡の勝利となって、奥六郡を清衡が支配することになった。清衡は江刺の豊田館から、奥六郡の閑門の平泉に居館を移すとともに、ここに閑山中尊寺を建築することになった。これは、長い間の戦乱で戦没した靈を弔うとともに、仏教による文化の華をこの地に咲かせること、併せて奥州ならびに国家の平安を祈念することにあった。この平和主義の文化振興は、その後、基衡・秀衡に引きつがれ、三代百年の文化の華が開くことになった。中でも秀衡は陸奥守と鎮守府將軍にもなり、名実ともに「北方の王者」として君臨し

た。

この平和な藤原氏の支配も、頼朝の武家政治による全国制覇の前に、秀衡はよく抵抗して、一步も奥州に手を触れさせなかつたが、四代目の凡庸な泰衡はそれに抗し得ず、頼朝の前に滅亡した。

この地方も鎌倉幕府の支配下に入ると、多数の関東御家人が奥州に下向し土着することになった。武家時代には、平安時代からこの地の特産とされてきた馬は、当時の武士の重要な武具の一つであったので、関東御家人はこの地方に多大の関心をもつたことが考えられる。

関東御家人の所領拝領についてみると、南部氏が広大な糠部郡を一人で拝領したとか、葛西氏が胆沢郡や江刺郡など広大な所領を拝領して、その下に千葉氏などを置いたなどということは、当時はあり得ないことで、実際には、多くの御家人が独自にそれぞれ所領を拝領し、それも数ヶ所に分れていたことが考えられるが、それについての詳述は省略する。いずれにしても、関東武士が各地に土地を拝領するとともに、その地に館を築いて居住することになった。

これらの館が当初から、防衛的な要素をもつものかどうか明らかでないが、鎌倉時代末～南北朝の争乱に伴う戦乱は、各地の武士をして、外敵の侵入を防ぐために、河川を利用した丘陵などの要害の地を選んで館を構えさせることとなっていく。

それは室町時代から戦国時代へと進むとともに、いっそう防衛的要素が整備されていったと考えられる。この戦国の争乱のうちに、北奥の糠部地方は南部氏によって、県南の胆沢・磐井・気仙郡の地方は葛西氏によって一円領知されるところとなり、南部領・葛西領となつていった。その中間の岩手・紫波・稗貫・和賀・上閉伊郡などには、それぞれ一郡乃至半郡を支配する戦国武将が輩出した。戦国時代に各地域がどの武将の配下に入ったかは個別に述べられているので省略するが、各地に土着の武装した豪族が、要害の地に館を設けて、それぞれの地方を支配した。『南部叢書』に収められている「邦内郷村志」に記載されている館跡や『宮城県史』に収められている「仙台領古城書立の覚」にのっている館跡は、戦国時代の各地の豪族によって營なされたものである。その中で、有力な者ほど規模も大きく、防衛的機能も整備されていたと考えられる。

これらの諸城も、秀吉の天下統一による「一国一城」の方針のもとに、大半は破却されることになった。『盛岡南部

城・関・館について

調査指導員 司 東 真 雄

城

岩手県における古代の城は四城ある。いずれも国(政府)によって造られた城である。

一は、延暦21(802)年、坂上田村麻呂将軍によって作られた胆沢城であり、多賀城から鎮守府が移された。すなわち胆沢城には、行政府と鎮守府の両様の機能があった。八丁四方の築地堀の内部に、政庁域や官衙域が設けられ、律令制に則った統治を図っていたのである。また、その一環として、この地方を方位で企画した可能性がある。たとえば真南二里半の明後沢に高大寺、真北二里半の門岡村に北大寺、東二里半の軽石村に高大寺、西二里半に十条院(後の永徳寺)を建て、五里四方を府内としていたのではなかろうか。検討に値する課題であろう。

鎮守府としては、南の高大寺を遠見寺とも呼んでいた可能性がある。胆沢郡の南端衣川村と、北大寺の上の山を國見山と呼んでいるが、展望がきくところからして軍事上の要地であったことの反映かとも思われる。

また、倉沢村(大同元-806年に、胆沢郡を割いて江刺郡を置いた)、白鳥村(前沢町)、小山村・若柳村(胆沢町)の4ヶ所に「方ハ丁(團)」という地名が残っていることはそれらに鎮兵の支團地が置かれた可能性もある。

江刺市の鶴脛と三照の曲り角の台地に「伝城(薦木)」という地名が存在することは、ここに烽火櫓があったことを示すとも考えられるし、同様の地形である田茂山(羽田町)百岡(金ヶ崎町)、片岡(岩谷堂町)、岩城(門岡村岩脇)などには連絡の櫓が存在した可能性がある。鎮守府の防備の陣をなしていたものであろう。

伝城と片岡には土壘・堀跡と思われるものが存在し、伝城からは金環を表探し、片岡からは布目瓦・曲玉等が採集された由であるが、その証拠とも考えられよう。

二は、延暦22(803)年、坂上田村麻呂によって造られた志和(波)城である。胆沢城と同じく南二里半に高水寺(矢巾町、旧高清水村)があるし、柴石川から水を引いて城内に田園を開いて、現地人への生活文化の改善指導にも力を注いでいた可能性がある。未だ郡も置かれていなかった段階で、開発を先行させていたのであろうが、度々の水害で城として不適地となり、兵千名を残して、南方の北上川に近い徳丹へ城を移すことになる。

三は、弘仁4(813)年、文屋綿麻呂が造った徳丹城である。この城も胆沢城と同様に、その内部に田園をもつていた可能性があるし、和賀郡黒沢尻村と稗貫郡宮野目村に残る「方ハ丁」という地名は、この城の支軍団の名残りの可能性がある。また、南方の城山、西方の煙山という地名も烽火櫓等の施設の反映とも考えられよう。

四は、嘉応2(1170)年、藤原秀衡が鎮守府將軍に任命された時、胆沢城の鎮守府へ赴任せず平泉へ鎮守府を置いたとされる。平泉の祇園社と三日町の間に「團」という地名が残っているが、あるいはここであったかもしれない。完成しても源頼朝によって破却されたとみえ、地名にのみ「團」が残ったものであろうか。

次に触れておきたいのは、宝亀11(780)年に、胆沢の賊を討つために造られた覺驚城についてである。その擬定地は先学により数多く示されてきているが、金ヶ崎町の鳥海櫓跡を含む地域もその一つであろう。

天喜5(1057)年、安倍頼時が戦死した鳥海櫓の周辺で、奈良時代遺構のある西根遺跡である。過去の学術調査で8世紀代の提瓶が出土しており、また堀・土塁等も残存する。

この城は広い地であったとみえ、胆沢城の東北隅に「カクベツ」の地名が残っている。「驚」は泥龜のことである。古代は龜を奇瑞の兆としていた。北上川辺に現在でも生息している。当時この辺へ大泥龜が出たので櫓名と地名も覺驚となつたのでもあろうか。

天平9(757)年、大室駅から和我君へ従った帰服の現地人がこの地へ土着し、故地名で鳥海村とし、その子孫達を造成の人夫として竣工したものとも考えられる。

この年、多賀城から紀広純將軍が覺驚城に合流し胆沢の賊を討つ計画であった。ところが、伊治城に入ったところで伊治公皆麻呂に殺されてしまう。そのため、覺驚城も4ヶ月で幻の城となってしまった。

擬定地についての検討課題として提起しておく。

関

岩手県には、軍防令による關門が二時期にわたって置か

れた可能性がある。

一は、元慶の乱の際である。陸奥国津軽郡の現地人が反乱をおこし、出羽国秋田城と近郊を潰滅させた。勅命で鎮守府から二千の兵を送ったが、兵達は二回にわたって逃亡を企てた。津軽から、反乱をおこした人々が胆沢城へ向かって来るとの情報が入ったことは当然考えられる。

元慶4(880)年、鎮守府将軍は胆沢城を守るために胆沢郡外に閑門を設けたのではないかろうか。その候補地として旧江刺郡広瀬川の北岸、東海道筋の内倉沢がある。昭和24年農作業中に9世紀代の土師器片が出土し「閑」の墨書文字が見られた。これは閑上の門の意味である。この辺は閑の下の地名である。その上に三閑村、二閑村、一閑村があり一閑村には柿木という地名もあり、閑兵を配した「垣の柵」の名残りとも考えられる。

磐井郡にも一閑村、二閑村、三閑村があり、三閑村の丘上には館跡も見られ、兵を置いた場所と考えられる。

二は、永承6(1051)年、陸奥国司藤原登任が、押領使安倍頼良を討伐するため、衣川村に閑を置いた際であろう。六郡のうち、その子供達へ与えていた柵と、一族を置いている柵との分断策であったろう。閑役人には藤原経清、平永衡を置き衣閑といった。衣川要害に本拠のある安倍頼良の娘二人は共に閑役人の妻になっていた。経清の妻に生まれたのが清衡である。

康平5(1062)年、衣閑は破却され、行政区も磐井郡平泉村へ替えられた。その閑所跡へ、天治元(1124)年、多宝寺、中尊堂、金色堂、経蔵などが建立され、基衝の時期の保延6(1140)年には中尊寺一山となったものであろう。

柵

柵は、多賀柵、桃生柵、覚繁柵など、城に改められる前から存在した。

河岸段丘上に、太柱の上部を削って尖らし、少し埋め、土を盛り土壘とし、柵列の無いとした。内側は2~3の郭に仕切る。郭と郭をつなぐ土橋も造られた。

典型的な例は、安倍氏の鶴脛柵跡に残存したという。当時は柵の直下を北上川が流れているらしく、北上川西の段丘は土壘、土壘の内側は空堀で道となっており、郭が3つ続き、両側に溜池があり、裏手には柵を守るかのように長い水田となっていたという。

隣村の三照村の比浦柵も郭も構造が類似していたといわれ、東端は10間ほどの深い沢となり、北側の柵下は1間毎の丸太の柵であったという。西側の郭の切れ目の一帯は、

現在でも照岡小学校側から見ることができる。

この2柵は、あるいはセットとして存在した可能性がある。同様に、瀬原柵と白鳥柵(卯木)、鳥海柵と白糸柵(金ヶ崎町諏訪神社周辺)、黒沢尻柵と鶴渡柵(小鳥崎)、厨川柵と堀戸柵なども、いずれもセットをなしている。

『前太平記』に、安倍氏の諸柵の記述が見えるが、磐井柵(柵の瀬の柵か)、瀬原柵、大麻野柵、鳥海柵、鶴脛柵、比浦柵、比与鳥柵、厨川柵、堀戸柵、その他とある。黄海柵、小松柵、黒石の安倍柵などがその他のうちであろうか。卯木というのは、卯の花の咲く空木の垣か。鬼柳町の卯木からは11世紀の土師器片と碁石10個が出土している。

館

館とは狭い城のことである。範囲は大であっても小であっても守りの拠点としての形をなしているので館といった。建物を含む柵である。大館、小館、東館、西館、上館、下館、一の台、二の台などとセットで存在したと考えられる館名も多く見える。

沼館、漆立(漆の割木の柵列か)、柿木(垣の城)、梅木(埋木の柵か)、卯木(空木の生垣か)などは情景、地形からした館名であろう。

築館は自然の台地を、守備に適したように加工した館であり、城輪、箕輪、月輪、櫓柵などは守備の陣形を名称とした營地である。

要害には二種ある。一は、無建物、平常時には人がいない所で、金ヶ崎町永徳寺への途中に存在したという。陸前高田市の両替は、気仙方言で要害のことである。上に館跡があり神社になっている。

二は、館の建物を守るために周囲までの堅めを含んでいるものである。『前太平記』に「安倍頼良は衣川の要害に住んでいた」とあるのは、周囲の堅めまで含んでいたのである。

陸前高田市竹駒町の臺館、江刺市石闇の茶臼城、臥牛城、柄杓城などは、その形状からの命名である。

齊羽場城は弓矢練習場が城になったものと考えられる。

岩脇は、岩が屏風のようにそそり立っている丘の上に古城した城、即ち岩城であろう。

岩崎城は、北上市黒岩と和賀町にあり、いずれも舌状台地上に立地した城で、地質からの命名であろう。

兵部館、内膳館のように、館主の名で呼ばれる城もある。

須々孫城のように、地名そのままを城名とし、城主もまた前姓を棄て、地名を以って新姓としたものである。

館名は忘れられているが、稗貫郡太田の昌歎寺、零石町広養寺、江釣子村江釣子神社、川崎村浪分神社のように、その跡と考えられる地が社寺となっている所もあり、金ヶ崎町法雲寺、陸前高田市光照寺、氣仙町金剛寺のように墓地一帯が南北朝期の館跡と考えられる地もある。和賀町藤根の稻葉神社の地は安倍館と呼ばれるが、館主は不明である。

江釣子城や平泉町花館の如くに校地等になって詳細不明となっているところ、北上市二子城や大東町猿沢館のように公園化しているところもある。

花泉町二桜城、朝日館、紫館は景による雅名である。

向城といってセットを思わせる名称もあるが、角懸城のように向城がありながら忘れ去られている地もある。

一見孤立した館の如くに見えるが、現地へ行ってみると「見張る」とか「伝える」ための施設が併存していることが多い。これらを組みあわせて館が成立していると考えるべきであろう。仙台博物館蔵の「仙台領内城要害図」という絵図面には、館の位置はもちろん、見張りの山も記されている。これこそ、館や城の実相を示していると見るべきである。

馬場先という地名も多い。羽場の地名と同様に付近に館が存在することを思わせる。館と結びつけて考えるべきものである。

次に時代性についてふれよう。平安時代初期の城は、すべて低地に築かれている。胆沢城は胆沢川から、志和(波)城は零石川から、徳丹城は岩崎川からそれぞれ水を引き、城内に堀をもち田園を耕した可能性がある。

平安時代も中期になり、安倍氏が磐井、胆沢、江刺、和賀、稗貫、斯波6郡の押領使(管理者)になると、領地を多く所有するようになり、北上川沿岸中心に、段丘上にブロック型の柵を設けた。東館、西館という型は安倍氏の柵に準ずる館と思われ、古い形式に属しよう。

藤原清衡が豊田城に住したころまでは、たとえ舌状台地であっても、段丘上に単式のブロックの城の形式をとる。

秀衡の頃になると、平泉の判官館のように丘頂部にも館が構えられることも見え始める。

なむ、安倍氏時代には小松橋と書かれた字も、しだいに館と記されるようになってくる。

鎌倉時代から山城が出てくる。また、地頭の館を城と呼び、支城や重臣の居所もすべて館と呼んでいた。地形に従い、あるいは戦略上変化のある館が見られるようになる。

古い山城は「帶」という浅堀の道が二段めぐらされることが多い。

鉄砲が導入されると高い土壘となってくる。大原飛驒守の如くに、かつて藤原清衡が築いた新山寺庭寺の跡地を利用し、新山城とした例もある。

県南部地方は、石巻(宮城県)に本城をもつ葛西氏のものと千葉六党によって、磐井、氣仙、胆沢、江刺が分割支配され、党人各々がさらに村々に家臣を配し、馬上侍も各々館をもち有機的結合を図った。

戦国時代末期になると、鉄砲による防禦による構えで、本丸、二丸、三丸、内堀、枠型の型ができてくる。

堀は古代からあるが、薬研堀は馬が足を折るように掘られ、戦国時代末以降の堀は灰や泥で深く水をたたえるようになった。

二重の櫓門は、窓から鉄砲を持つ建物となった。花巻市鳥谷ヶ崎神社の門は、かつての和賀郡二子城の大手門である。

江戸時代になると、盛岡城のように大名の城として、本丸に天守閣、二丸、隅櫓、堀、惣門、内丸という構えとなつた。

花泉町湧津・金沢、氣仙町今泉、前沢町、岩谷堂町のように、町割の中に枠形が見られるところもあり、戦略的には敵にとって迷路となっている。江刺市野手崎の小梁川氏の館のように、幕府の許しを得て惣門内に枠形を置き、出陣の際、隊の人数を目算するほか、攻撃された場合の迷路としたものや、また望楼の地に祖靈社を建てる例もある。

遠野市の南郎氏支城について珍しいのは、瑞應院本堂の建築である。広廊下と内陣は驚張りであり、殿様の御座間は横が忍び返しであり、殿居侍の密詰所になっている。

水沢市正法寺は、太閤代官として胆沢、江刺郡仕置に来た石田三成の本陣であり、和賀郡では浅野弾正が光林寺を本陣としたが、瑞應院のような本陣建築ではなかった。瑞應院本堂は今は幻となってしまった。おそらくは、京都桃山伏見城の御座間の模倣ではなかったかと思われる。

以上、城館調査等に関連した留意点について簡単にふれてみた。胆沢城の府内觀、点在する方八丁の解説、烽火の存在、覚驚城の擬定地、閑門の存在、地名の解説等には多くの仮説を含んでいるが、今後の検討課題の一つを提示したいとの意図のもとに、あえて記述したものである。

岩手県城館跡の一類型

——いわゆる蝦夷館について——

調査員 本 堂 寿一

東北地方の古代城柵については、律令国家が設けた城柵・官衙と、「前九年・後三年の両役」の時代の柵が知られている。前者については、発掘調査によってその実態が徐々に解明されつつあるが、後者については不明な点が多く、その発展過程についてはまったく究明されていないのが現状である。

にもかかわらず、この東北地方には城柵・官衙や柵に対応するものとして、蝦夷自身の城郭、すなわち「蝦夷館」というものの存在が伝承されてきた。こうした伝承は先住民に対する推量から生じ、古代とか中世とか時間的序列の證索を必要としない昔語りであった。

ところが、これに学問的見解が加わって「チャシ」というアイヌ語が付され、加えて中世城館との区別がつけがたいために、構造単純で小規模な館（タテ）の前身がチャシと考えられるにいたった。しかし、未だに外観構造による推定に依存しており、解決をみていない。

この問題は発掘調査によって解決するより方法はないわけであるが、これまでの成果を基礎として、ある程度の仮説をたてることはできる。

館跡の構造が単純だと、小規模だと、人里離れた山間部に所在するとかの理由で、蝦夷の館跡とするのは誤りであるが、囲郭内に堅穴式住居跡が群在したり、囲郭施設が存在しなくとも、きわめて生活不便と思われる高所にそれらが存在する場合、その集団の防禦的立地かと思われる場合もある。ただし、この場合も、堅穴式住居跡と囲郭遺構が同時存在であるという確証は無いし、生活不便とはいっても、生産様式の違いによっては、人々の行動範囲も異なってこようから、いちがいに断定はできないわけである。

東北地方において、在地民の古代城柵としてその実態が明らかにされた例に、秋田県横手市所在の大鳥井山遺跡がある。そのほか、岩手県では、一関市泥田山遺跡や、岩手町沼館遺跡のように、柵跡内部から平安時代中期以降の遺物類が検出された例もある。しかし、文献上明らかな盛岡市弱川柵跡や、金ヶ崎町鳥海柵跡、紫波町比爪館跡、平泉町関山中尊寺を含めて、当時の遺物検出はあっても防禦施設の遺構は明確にされていない。

大鳥井山遺跡は、横手川右岸の段丘状丘陵部に所在し、通称大鳥山、子吉山、台所館という地形的区割からなる三館で構成されている。これらのうち発掘調査されたのは子吉山の約2haであるが、空堀に沿う柵列のほかに、浅い住

居様堅穴遺構と掘立柱建物跡がセット関係にあるかのように、数ブロックで確認されている。それぞれが家族単位的であり、これらが全域に広がっているとすれば「集落保塞的」遺跡ということができる。すなわち、この大鳥井山遺跡に限ってみれば、弥生時代の環濠集落と中世の城館との中間的な要素が認められるのである。

大鳥井山遺跡は、大鳥太郎頼遠の居館、大鳥井柵と通称され、その造営年代は「後三年の役」の合戦と発掘遺物から、11世紀中葉を盛時としている。そこで注意されねばならない点は、この年代に至った仙北地方や北上川流域では、堅穴式住居から多くは掘立柱住居に移行していると考えられることである。したがって、それ以北の地方において、今もって明確に窪んでいる堅穴式住居跡も、それ以前か、逆に中世の住居様堅穴遺構である可能性も考えられるわけである。

平安時代の堅穴式住居跡が内在する館跡で、広大な面積が発掘された例に、秋田県鹿角市の乳井遺跡や、青森県大鰐町の大館遺跡がある。しかし、これらの調査報告書でも堅穴式住居跡と囲郭した堀との同時性は明確ではない。

以上のほかに、擦文期の堅穴住居跡と囲郭する堀が同時に存在するという青森市蓬田の大館遺跡があるが、この例のほかに同類を求めるることは、今のところ困難である。

以上のほかに、囲郭施設は伴わないが、登降困難な山頂部や丘陵斜面に堅穴式住居跡が分布する例も多い。たとえば、岩手県西根町子飼山遺跡は、谷底からの比高100m以上の高所であり、狭い山頂部に4~5棟の堅穴群がある。

また、その北西約3kmの、同町暮坪遺跡は、比高約80mの丘陵状台地で、数10棟の堅穴群が存在する。

いずれも丘陵基部はほぼ同レベルで奥地へと続いているが、谷の傾斜は急であり、その登り降りは困難で、飲料水の確保等から考えれば、近谷秀雄氏が主張するように、高地性防禦集落なのかもしれない。しかし、この場合も、生産圏がさらに高地にあり、堅穴群のある尾根突端から基部にかけて、平地から高地への道に当っていることも考えられる。

こうした山間集落跡は、現在のところ、北上川中流域から北部にかけて多く報告されているが、県北部においてはかなりの高所や傾斜面に構えられた集落跡の発掘例も増加している。これらについても防禦施設が付帯されているのであれば、その立地的性格を規定できるのであるが、その

度合いは感覚的に判断せざるを得ない段階にある。

防禦の必要度は、社会の未組織的段階ほど高いわけであるが、防禦施設の出現と兵の組織化は一体的なものでありその実体化は一定の発達段階にあることは城郭史からいつて明らかである。

蝦夷（俘囚）を対象として考えれば、元慶2（878）年の乱などからして、北奥の集落民は、きわめて兵的性格を帶

びた段階にいたっていると想定される。しかし、その組織化は安倍氏や清原氏といった大族長に淘汰される過程にあり、そうした中の拠点的集落こそ防備の必要性が高かったと考えられる。『陸奥誌』などからすれば、その数は地侍の数ほどあった中世城館の比ではなく、領主的居館として定型化していなかったことが予想される。

城館跡等出土の陶磁器

調査員 昆野 靖

岩手県内における古代から中・近世にかけての出土陶磁器は、90余りの遺跡で確認されており、発掘調査遺跡の増加と相俟って、各種の資料が漸増している。従来、陶磁器の出土遺跡は、主として経塚・墳墓・寺院跡等であったが城館跡や集落遺跡からの出土例が増加し、国産品のみならず多様な舶載陶磁器が広汎に分布していることが明らかとなり、さらに官衙・城柵跡においても新たな資料が発見されている。

1. 官衙・居館跡等の陶磁器

平安時代から鎌倉時代にかけての陶磁器は、官衙・城柵・居館・寺院・経塚・集落等40余の遺跡から出土している。

延暦2（802）年の造営とされる水沢市脇沢城跡からは9世紀後半から10世紀前半の施釉陶器及び舶載磁器合せて400余点が発見され（註1）。弘仁2（813）年に志和城から移転造営された矢巾町徳丹城跡からは、綠釉瓦や灰釉陶器が出土している（註2）。前者には畿内産の綠釉陶器、東海産の灰釉陶器があり、碗・皿・瓶・壺・香炉等が含まれる。また、中国産磁器には越州窯系青磁碗・皿・鉢・邢州窯系白磁碗・皿等20点があり、いくつかに器形分類される。

官衙跡のほかに、10~11世紀の施釉陶器を出土する遺跡には、北上川流域の集落遺跡（註3）と「定額寺」とされる北上市極楽寺跡（註4）がある。いずれも畿内・東海産の綠・灰釉碗・皿・壺等が1~2点出土しており、分布状況とともに注目されるものがある。

奥六郡を支配した安倍氏の柵のうち、鳥海柵擬定地の金ヶ崎町鳥海A・B遺跡と、これに隣接する西根遺跡（註5）からは、常滑焼や渥美製婆文壺など、12世紀の東海産瓷器系陶器が出土している。

平泉藤原氏に関連する遺跡では、藤原清衡・基衡の居館と伝えられる平泉町柳之御所跡から、在地産の土師質土器や須恵器系の壺とともに東海産の施釉陶器、中国産の陶磁器が多量にみられる。東海産には常滑壺・三筋壺・鉢、渥美製婆文壺等があり、舶載品には同安窯系青磁描文碗

竜泉窯系青磁蓮弁文皿・瓶、青白磁合子・梅瓶・水注、白磁碗・皿・鉢・四耳壺・梅瓶、褐釉壺等各種に及び、第16次調査までに東海産瓷器系陶器560点、須恵器系陶器70点、輸入陶器80点余りに達している（註6）。土師質土器に比して出土点数が少ないが、毛越寺や中尊寺・周辺の遺跡（註7）から出土する陶磁器組成に共通する点が多い。

そのほか、藤原清衡の平泉移転以前の居館とされる江刺市豊田城跡（註8）から、白磁描文四耳壺が発見され、清衡の子清綱の居館紫波町比爪館跡（註9）には白磁玉縁碗・水注等が出土している。また、東和町丹内山神社経塚（註10）に白磁四耳壺が湖州鏡とともに出土する（註10）



陶磁器出土主要遺跡分布図

など、12世紀後半には中国産磁器が北上川流域に広く搬入されていることが推測される。また、東海産の陶器は、淨法寺町天台寺経塚等馬渕川支流域（註11）にも及んでおり宗教遺跡を中心に同様の経路を経て浸透していることが指摘されるが、なお限られた受容段階が推測される。

2. 城館跡等の陶磁器

鎌倉時代以後中世の陶磁器は、平安時代末期から存続する居館跡等を含めて26遺跡から出土している。しかし、中世前半の遺物は全体的に少なく、室町～戦国時代の陶磁器は著しく増加し広汎に分布する。

13～14世紀では、源頼朝によって本領安堵された清綱の子俊衡の居館比爪館跡に竜泉窯青磁筒形香炉・柳之御所跡に常滑壺、瀬戸四耳壺、竜泉窯系青磁皿・花瓶等（註12）がある。ほかに、花巻市古館遺跡（註13）に同青磁花文貼瓶、水沢市膳性遺跡（註14）に青磁碗、青白磁唐草文梅瓶が出土している。

14世紀後半から15世紀にかけては、和賀氏の臣鬼柳氏の居城とされる北上市丸子館跡（註15）から、瀬戸黒褐釉壺・灰釉瓶・碗・皿、美濃天目碗等の国産品と青磁無文碗・皿、白磁皿等の舶載品の出土があり、豪族屋敷跡の繫皿遺跡（註16）には、瀬戸灰釉卸し皿・折縁深皿・類等の東海産灰釉陶器と輸入品の青磁碗、白磁碗がある。いずれも若

干の地方窯陶器を伴っている。

15世紀後半から16世紀の陶磁器は、城館遺跡を中心に著しく増加する。北上川本・支流域には、紫波町柳田館（註17）、石鳥谷町大瀬川館（註18）、北上市鹿島館（註19）、和賀町岩崎城（註20）、江刺市岩谷堂城（註21）、金ヶ崎町柏山館（註22）、大東町伊勢館（註23）、千厩町牧の巣館跡（註24）等があり、馬渕川流域では、一戸町一戸城（註25）、二戸市九戸城（註26）、沿岸の宮古市金浜館跡（註27）等があげられる。出土点数に多少があるが、主として瀬戸・美濃の東海産施釉陶器と、中国陶磁器・朝鮮陶器であり、在地産等の陶器が散見される。

国内産の施釉陶器には、瀬戸灰釉皿・卸し皿・鉢・瓶・褐釉壺、美濃灰釉碗・皿等のほか、天目茶碗・茶入・茶臺などの喫茶用具、水滴等の文房具類があり、中国産青磁を輪形とする灰釉線描蓮弁文碗・皿などが多い。また、常滑壺、殊州系擂鉢・土師質皿・香炉・火鉢等がみられる。

中国明代の陶磁器では、青磁無文碗・雷文帶碗・線描蓮弁文碗・陵花皿・菊花皿・盤・袴腰香炉・酒会壺・白磁碗・皿・盃・水注・梅瓶・染付碗・皿・盃・赤絵皿等がある。白磁皿には切高台皿・内湾皿・外反皿・端反皿・染付皿には内湾皿・端反皿・幕筒底皿があり、器形や口径の大小など器形の異なる碗・皿類が混在する。また、染付碗・皿に

岩手県内出土的主要舶載磁器

西暦	青 磁			白 磁		染 付		赤 絵	
	碗	皿・鉢	香炉	碗	皿・壺	碗	皿	碗	皿
900									
1000									
1100									
1200									
1300									
1400									
1500									

描かれる文様には、牡丹唐草文、草花文、蕉葉文、渦状文、玉取獅子文、十字華文、雷文、菱格子文、折枝文、人物文、寿字文等があり、「福」や「大明年造」等の銘をもつものが含まれる。これらの大部分は食膳用具であり、大型品や優品はほとんどみあたらない。

16世紀末から17・18世紀における陶磁器は、柳田館、伊勢館、牧の巣館、九戸城跡（註28）等の中世末期からの城館遺跡に若干の出土があり、その大部分は国産品によって占められる。唐津灰釉皿、唐津系青緑釉皿、志野皿、美濃灰釉皿、天目碗、伊万里染付碗、皿、青磁碗、皿等があり、しだいに伊万里系染付碗、皿や東海産の陶磁器とともに在地窯雜器が増加している。輸入品では中国清代の染付皿が認められるにすぎない。

そのほか、18世紀後半から19世紀末までの遠野南部家27～32代の墓所出土の陶磁器40余点等、墳墓から出土する陶磁器がある。

3. 城館跡出土陶磁器の特徴

古代における陶磁器は政治的要因に負うところが大きいが、中世城館跡出土の陶磁器はその組成や特徴によって大別4期に分けられる。

前期の12～13世紀は、圧倒的な比率を占める土師質土器に東海産の瓷器系陶器、須恵器系陶器、舶載陶磁器を伴う段階である。前者には壺、甕、鉢があり、その大部分は常滑・渥美産の壺である。後者では青磁碗・皿、白磁碗・壺のほか、青白磁の合子等若干が含まれるが、白磁が舶載品の60%以上を占め、碗に比して四耳壺が多く、器種が限定される傾向がみられる。

中期の14～15世紀は、舶載品が減少するなど全体に希薄になるが、青磁の大型品や優品が散見される。国内産では瀬戸灰釉碗・皿・瓶、美濃天目碗等の施釉陶器、珠洲系擂鉢や地方窯甕・壺等の無釉陶器があり、瀬戸灰釉陶器が主体をなす。舶載品では青磁碗・皿・瓶・壺、白磁皿があり、しだいに飲食品等の小型品が増加する。

後期の16世紀には多種多様な陶磁器が大量に搬入され、ことにも舶載品が国内産を凌駕する。国内産には、瀬戸・美濃灰釉碗・皿、天目碗、常滑甕等のほか、文房具・茶器等の施釉陶器があり、美濃灰釉碗・皿が著しく多い。土師質土器には香炉や火鉢等があるが、中期と同様きわめて少量である。舶載品は青磁、白磁、染付、赤絵の碗・皿・蓋、褐釉壺等であり、大量生産される小型品の食膳用具がほとんどを占める。

末期の16世紀末から17世紀前半にかけては国産品に転換する過渡期と解され、輸入陶磁器が途絶え、国産の唐津灰釉皿、美濃・志野皿等があるが、絵唐津や美濃折縁皿など

未確認の資料も多い。

県内における城館出土の陶磁器は、武士階級の成長とともに浸透し、御家人層からしだいに「館持」武士階級を中心とする過程と把えられる。舶載品の輸入量が増大する第3期はもっとも受容層が拡大する段階であり、その内容は土師質土器の減少や国内産製品の産地別比率の相違等、特異性も指摘されるが、国内状況に共通する点が多い。

註1 水沢市教育委員会 1984 銚沢城跡 昭和58年度発掘調査概報

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1984 奈良・平安の中國陶磁ほか

2 矢巾町教育委員会 1984 徳丹城跡 昭和58年度発掘調査概報ほか

3 伊藤博幸 1984 岩手県考古学会発表資料ほか
岩手県教育委員会 1979 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

4 北上市教育委員会 1972 北上市極楽寺跡

5 岩手県教育委員会 1981 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

6 平泉町教育委員会 1983 柳之御所跡発掘調査報告書 第11・12次発掘調査概報ほか

7 岩手県教育委員会 1980 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Vほか

8 江刺市 1982 江刺市史 第5卷

9 紫波町教育委員会 1983 比爪館遺跡 第6次発掘調査報告書ほか

10 東和町教育委員会 1961 東和町舟内山神社経塚発掘調査報告ほか

11 板橋 源 1959 天台寺土塚ます丘発掘記 岩手史学研究所収

12 平泉町教育委員会 1984 柳之御所跡発掘調査報告書 第13・14・15・16次発掘調査概報

13 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 埋蔵文化財調査略報 昭和60年度

14 岩手県埋蔵文化財センター 金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ

15 北上市教育委員会 1983 丸子館遺跡発掘調査略報 北上市立博物館研究報告 第4号所収ほか

16 岩手県埋蔵文化財センター 1980 御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書

17 岩手県教育委員会 1980 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

18 同 1981 同Ⅴ

19 北上市教育委員会 1975 鹿島館遺跡調査報告書Ⅰほか

20 和賀町教育委員会 1967 平安初期郡衙遺跡 岩崎城の発掘

21 岩手県埋蔵文化財センター 1984 埋蔵文化財発掘調査略報 昭和58年度

22 同 1983 鮎山遺跡第2次発掘調査報告書

23 大東町教育委員会 1984 伊勢館遺跡発掘調査報告書

24 千厩町教育委員会 1981 発掘調査

25 一戸町教育委員会 1982 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱほか

26 二戸市教育委員会 1985 表面採集遺物ほか

27 岩手県埋蔵文化財センター 1985 岩手の遺跡ほか

28 二戸市教育委員会 1983 橋場（九戸城跡）遺跡発掘調査報告書

29 遠野市教育委員会 1978 遠野南部家墓所改葬調査概報ほか

30 岩手県教育委員会 1982 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅵほか

城館跡等出土の穀物類

調査員 高田和徳

岩手県内で穀物（稊痕を含む）の出土した遺跡は、現在まで44に達している（注1）。時代毎の内訳は、弥生時代5、古墳時代3、古代（奈良～平安時代）20、中世11で、時代不明が5となる。古代のうち、奈良時代まで遡るのは2しかなく、平安時代が大半で17を数えており、県内では平安時代になり穀物の出土例が急増していることを示している。

平安時代の遺跡は、調査例そのものが、他の時代に比較して多いことにもよるが、弥生時代から奈良時代までの出土例がいずれも稊痕で、穀物そのものが出土していないことや、平安時代以降、稊のほかに大麦・小麦・小豆・粟・

などの穀物を伴っていることから、あるいは生産力が向上したことを裏づけているのかもしれない。中世になると、大半が城館跡からの出土であり、城館跡では調査例に比較し、その額度が高いこともその特徴となっている。

以上の遺跡は、小田島操郎により報告された浄法寺町銭瓶平、岩手町竹花遺跡のように、戦前に調査されたもの（註2）もあるが、ほかはいずれも戦後の調査によるもので、しかも昭和45年以降の大規模開発に伴う調査で出土したものが多い。

付表 岩手県内出土の穀物類について（平安時代以降）

No.	遺跡名	種別	所在地	時期	出土穀物の概要	調査年度
1	胆沢城	城柵	水沢市佐倉河字渋田	平安(9C)	稊（掘立柱建物跡柱穴）	昭和29～31年
2	真城雷神	集落	水沢市真城雷神上野園地	平安	米	昭和48年
3	猫谷地	集落	江釣子村猫谷地	平安(9～10C)	稊（土師器甕）、稊塊（竪穴住居址）	昭和48、49年
4	機織山Ⅱ	集落	一関市機織山	平安(10C)	稊塊、小豆（土師器甕）	昭和50年
5	厨川柵	城柵	盛岡市前九年	平安	稊	昭和32年
6	下谷地B	包含地	江釣子村北鬼柳	平安(9～10C)	稊痕	昭和49年
7	上平沢新田	集落	紫波町上平沢新田	平安(9～10C)	米	昭和50年
8	田中Ⅲ	集落	一戸町岩館字田中	平安(10C)	稊（竪穴状遺構）	昭和52年
9	田中Ⅳ	集落	一戸町岩館字田中	平安(9～10C)	稊（竪穴状遺構）	昭和55年
10	馬場平2	集落	一戸町岩館字馬場平	平安(10C)	小麦（竪穴住居址内の木製容器）	昭和52年
11	上野B	集落	一戸町一戸字上野	平安(10～11C)	稊痕（土師器内黒坏）	昭和59年
12	江刺家Ⅳ	集落	九戸村江刺家	平安(10～11C)	稊、粟、小豆、大麦（竪穴住居址内の容器）	昭和56年
13	野田	集落	野田村中平	平安	米	—
14	銭瓶平	集落	浄法寺町銭瓶平	平安	稊痕	大正9～13年
15	竹花	集落	岩手町一方井字竹花	平安	米（米か稊か不明）	大正9～13年
16	川向Ⅲ	集落	九戸村伊保内字川向	平安(10C)	稊痕	昭和55年
17	長者星敷	集落	松尾村松尾大花森	平安	稊痕	昭和54～55年
18	五庵I	集落	浄法寺町駒ヶ嶺字五庵	平安、中世	粟、稗（平安、竪穴住居址）、麦（中世）	昭和59年
19	柳田館	城館	紫波町中平字片寄	中世(16C)	稊（米、稊塊）、大麦粟、小豆、粟	昭和50、51年
20	大瀬川館	城館	石鳥谷町大瀬川	中世(16C)	稊（米）、大麦、小麦、小豆、稗、ソバ、綠豆	昭和49年
21	古館	城館	花巻市中根子字古館	中世	稊、小麦、小豆（竪穴状遺構）	昭和47年
22	岩崎城	城館	和賀町岩崎	中世(15～16C)	米	昭和41年
23	館山城	城館	金ヶ崎町上宿	中世	米（掘立柱建物跡柱穴）	昭和54年
24	岩谷堂城	城館	江刺市岩谷堂字館下	中世	米（遺構外）	昭和58年
25	伊勢館	城館	大東町鳥海字清水	中世	稊（土壠）	昭和57年
26	繫II	集落	盛岡市繫字湯の館	中世	稊穀	昭和50年

27	五庵Ⅱ	集落、城館	浄法寺町駒ヶ嶺字五庵	中近世(16~17C)	穀(米)、大麦、小豆、ソバ、粟、稗	昭和59年
28	一戸城	城館	一戸町一戸字北館	中世(15~16C)	穀穀と米塊(掘立柱建物跡柱穴)	昭和54年
29	一戸城	城館	一戸町一戸字北館	中世(15~16C)	穀、大麦、小豆、ソバ(堀)	昭和58年
30	一戸城	城館	一戸町一戸字北館	中世(15~16C)	穀(米)、大豆、小豆、稗、小粟(竪穴状遺構)	昭和59年
31	水神墓	墓	安代町字土沢	中世	米	昭和59年

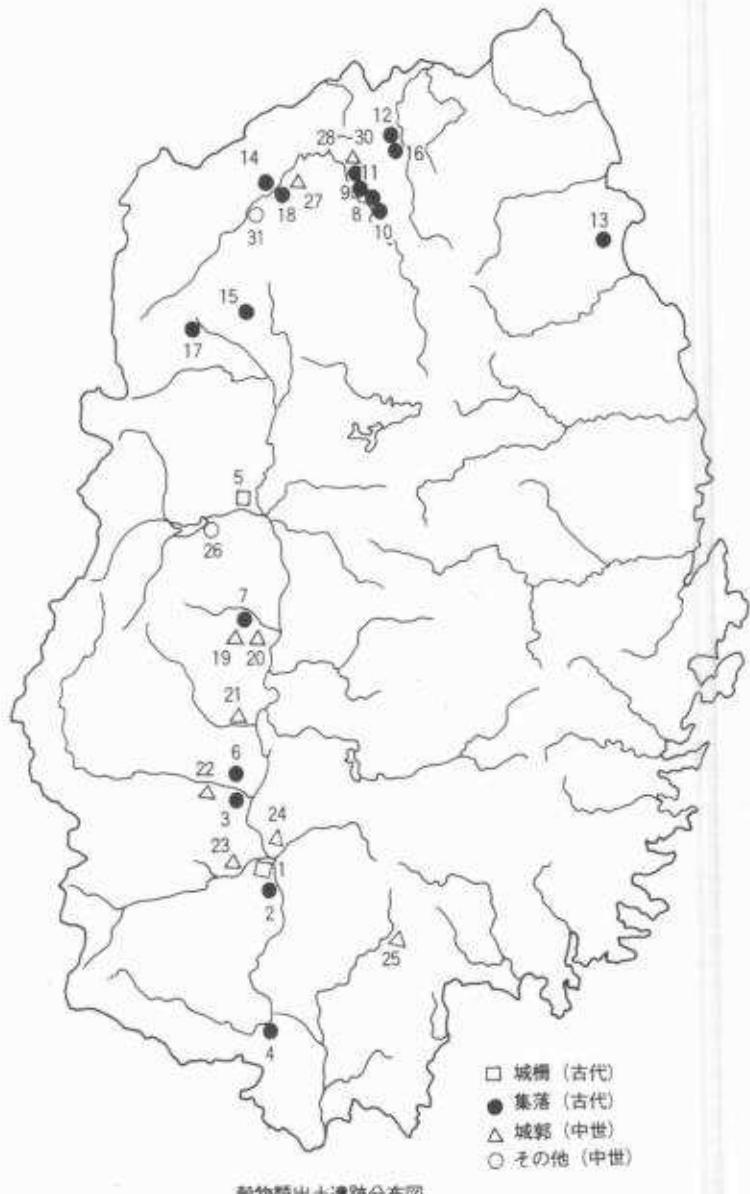
ここでは、平安時代以降の、中世城館跡を中心にその概略を紹介する。

古代の城柵では、水沢市胆沢城(註3)盛岡市厨川柵擬定地(註4)から、いずれも昭和20年代後半から30年代前半の調査で、1~2粒が出土しているが、その内客は必ずしも明らかでない。むしろ、平安時代では集落遺跡から良好な資料が得られており、江釣子村猫谷地遺跡(註5)九戸村江刺家遺跡(註6)、一関市機織山遺跡(註7)では、竪穴住居跡内の土師器壺、あるいは木製容器から出土しているし、一戸町の田中Ⅲ遺跡(註8)、田中Ⅳ遺跡(註9)では、カマドをもたない小規模な竪穴状遺構から、稻穂のまま多量に出土している。このような竪穴状遺構は、県北地方ではすでに奈良時代の遺跡でも検出されているが(註10)、田中Ⅲ・Ⅳ遺跡は平安時代中期の遺跡である。出土した穀の中には、芒の付くものがあり周辺で作付けされたことは確実である。平安時代の分布を見ると、県南部では北上川流域沿いに限られるが、機織山Ⅱ遺跡で小豆が出土したほか、米以外の出土例は無い。一方県北部では、江刺家Ⅳ遺跡で、米・粟・大豆、一戸町の馬場平遺跡(註10)で小麦、浄法寺町の五庵Ⅰ遺跡(註11)で米を混じえずに粟・稗がそれぞれ出土しており、県南部とは対照的である。

中世城館跡では、紫波町柳田館跡(註12)、石鳥谷大瀬川館跡(註13)、一戸町一戸城跡(註14)、花巻市古館遺跡(註15)でかなりまとまって出土している。とくに大瀬川館、古館遺跡、一戸城跡では、竪穴状遺構から大量に出土している。各遺跡の出土概要は次の通りである。

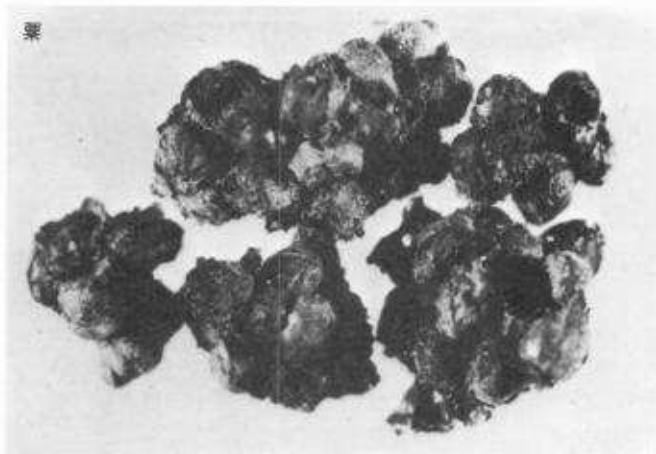
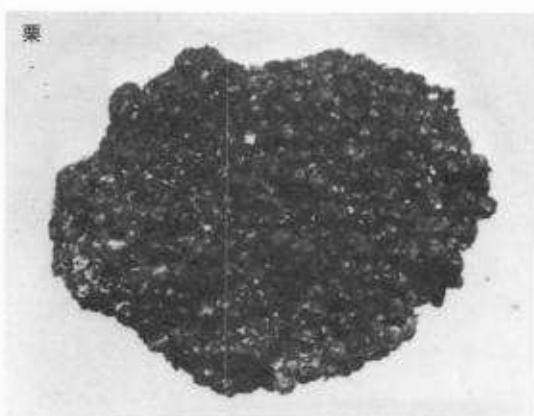
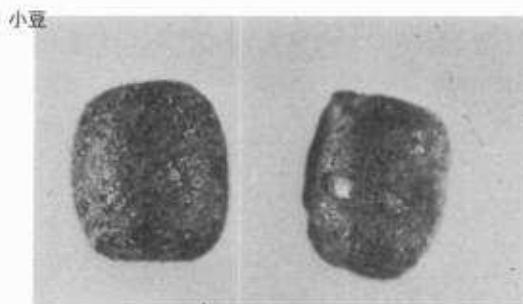
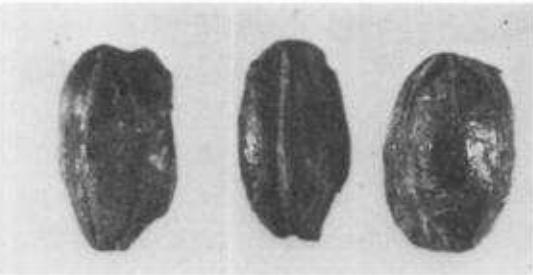
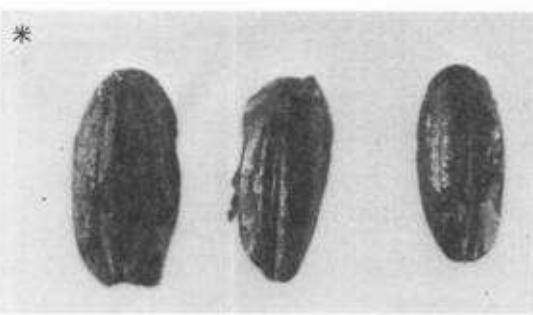
柳田館跡 紫波郡紫波町片寄字中平

南部信直の家臣である中野康実の居城で、16世紀後半か



穀物類出土遺跡分布図

ら17世紀にかけての存続期間が想定されている。昭和50年から51年にかけて調査されており、穀(米も含む)、大麦、粟、小豆が出土している。穀はほぼ全域に分散し、その他の穀物もこれに混在した状態となっており、1ヶ所に偏在することはない。穀は焼膨れするものや虫喰いのものもあり、二次加熱により塊状となった穀や粟もある。遺構に伴って出土したものでなく、焼失後削平地等の形成により分



一戸城跡出土穀物(昭和58年度)

散したものである。

大瀬川館 稗貫郡石鳥谷町大瀬川

稗貫氏の家臣である瀬川隱岐の居館で、16世紀中頃中心の城館である。穀(米)、大麦、小麦、小豆、綠豆、稗、ソバが、掘立柱建物跡の柱穴、竪穴状造構、堀などから出土している。とくに、竪穴状造構2棟から米が出土しているが、壁に板材を並列させた1棟から、炭化物や草木灰とともに塊状の穀が出土しており、なかには稲穂と見られるものも含まれている。

一戸城跡 二戸郡一戸町一戸字北館、大沢

一戸南部氏の居城で、15—16世紀、とりわけ16世紀を中心とする城館である。昭和54年と57~60年にかけて調査された。昭和54年の調査で大規模な掘立柱建物跡の柱穴から米塊と穀殼が出土したほか、昭和58年には、稗、大麦、小豆、粟、ソバの実が堀跡から出土しており、とくに米と小豆の量が多い(付図)。平場から混入した状態となっている。昭和59年の調査では、張り出しをもつ竪穴状造構や整地面の覆土から、大豆、小豆、稗、穀、粟、小栗が出土している。とくに、竪穴状造構の1棟から、大豆、小豆、稗

が藁とともに多量に出土し、若干の穀、粟、小栗を混じえている。他の1棟からは、大豆、小豆、穀、小栗が出土しているが、同じ遺構から釘を用いた木製容器が出土しており、竪穴内での貯蔵方法が多様であったことを示している。

古館遺跡 花巻市湯口町大字中根子字古館

稗貫氏の一族である根子氏の居城で中館とも呼ばれる。陶磁器が出土していないため不明であるが、16世紀を中心とするものと思われる。張り出しをもつ4棟の竪穴状遺構から、米、小麦、小豆が出土しているが、米は焼脛されたものや虫喰いのほかは、いずれも穀の状態で出土している。

その他、淨法寺町の五庵Ⅱ遺跡では、駒ヶ嶺館の後方の平場で検出した掘立柱建物跡の柱穴、竪穴から穀(米)、大麦、小麦、ソバ、粟、稗、岩崎城(註16)、館山(註17)、伊勢館(註18)、岩谷堂城(註19)から米が出土している。

以上が中世城館跡から出土した穀物類で、大麦、小麦、小豆、粟、稗は、すでに平安時代に出土しているが、中世

では、ソバ、綠豆、小栗の類例が追加され、おもな穀類のほとんどが出土していることになる。城館跡の竪穴状遺構から多量に出土する穀物は、兵糧のためと貯蔵であろうか。

出土穀類のうち、米については、粒形とその計測値の比較により、古代から中世の遺跡について対比する作業も進んでおり、古代の北上川流域と馬瀬川流域という県北と県南部、さらに県北部でも馬瀬川流域の一戸町田中Ⅲ・Ⅳ遺跡と、瀬月内川流域の江刺家遺跡では微妙な違いがあるが古代の米は、基本的には弥生時代以降、東北地方に広く分布していた短粒を主体とし、円粒が若干含まれるのにに対し中世城館跡から出土する米は、短粒を主体とするが、長粒も一定量含まれることから、古代から中世にかけてのある時期に、別種の稻が導入された可能性が強い(註20)との見解も出されており、まだ資料も少く、地域的な偏りもあるが、岩手県内での稻の系譜にまで言及できうる状況となってきた。

註(1) 一戸城跡 昭和59年度発掘調査概報 一戸町教育委員会 V 岩手県内出土の穀粒について、表1、岩手県内出土穀粒一覧表では40遺跡を掲載したが、その他に次の4遺跡での出土を確認した。

No.	遺跡名	種別	所 在 地	時 期	出 土 穀 物 の 概 要	調 査 年 度
1	上野山	集 落	久慈市長内町	奈 良	穀 痕	昭和58年
2	湯舟沢	集 落	滝沢村	弥 生	穀 痕	昭和58年
3	高 柳	集 落	滝沢村	古 墳	穀 痕	昭和60年
4	竹 花	集 落	岩手町一方井字竹花	平 安	穀	大正9~13年

註(2) 県下に於ける竪穴及びチャシに関するもののその1、岩手県史跡名勝天然記念物調査報告第4号

註(3) 文化財調査報告第四集 胆沢城跡、水沢市所在、岩手県教育委員会 昭和32年

註(4) 厨川柵 盛岡市文化財シリーズ第1集 盛岡市教育委員会 昭和54年

註(5) 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XVI、岩手県教育委員会 昭和57年

註(6) 江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書I (財)岩手県埋蔵文化財センター 昭和59年

註(7) 東北新幹線関係埋蔵文化財報告書I 岩手県教育委員会 昭和54年

註(8) 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書I 一戸町教育委員会 昭和56年

註(9) 前掲8

註(10) 中曾根Ⅱ遺跡発掘調査報告書 二戸市教育委員会 昭和56年

註(11) 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 一戸町教育委員会 昭和58年

註(12) 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 岩手県教育委員会 昭和55年

註(13) 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴ 岩手県教育委員会 昭和56年

註(14) 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 一戸町教育委員会 昭和57年

一戸城跡 昭和58年度発掘調査概報 一戸町教育委員会 昭和59年

一戸城跡 昭和59年度発掘調査概報 一戸町教育委員会 昭和60年

註(15) 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ 岩手県教育委員会 昭和56年

註(16) 岩崎城の発掘 和賀町教育委員会 昭和42年

註(17) 岩手県教育委員会調査 未報告

註(18) 昭和57年度伊勢館遺跡発掘調査報告書 伊勢館 大東町教育委員会 昭和59年

註(19) 岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 (財)岩手県埋蔵文化財センター 昭和60年

註(20) 佐藤敏也 SBOI 出土炭化米について 前掲14 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅷ所収

本 文

(Ⅱ)

城 館 跡 一 覧 表

盛岡市

地図 No.	行政 変遷 No.	明治 20 藩 號	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	構 造	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
1	1	宇石町	繩	上野館	繩字蔵内洪	丘陵、城	山林	郭、堀			
2	2			轄内館	◆ ◆	山頂、 ◆ ◆	◆	◆			
3	3			船市館	* 館佐	◆ ◆	◆	◆			
4	4			湯ノ館	* 湯ノ館	◆ ◆	◆	◆			
5	5			新城館	* 堂ヶ原	◆ ◆	◆	◆			
6	6	盛岡市	猪去	猪去八幡館	猪去字田面野木	丘陵	◆	◆			
7	7			猪去越	◆ ◆	◆ ◆	◆	◆			
8	8		上流妻	上流妻	上底妻字小和田	平地、居館	◆	◆	◆		
9	9		上太田	上太田	上太田字船	丘陵、 天昌寺町付近	◆	◆	◆		
10	10		下財川	下財川	里、館	安倍館町	◆	◆			
11	11		上田	上田	上田城	◆ ◆	◆	◆			
12	12		仁王	仁王	仁王館	◆ ◆	◆	◆			
13	13		新庄	新庄	新庄館	不來方北館 内九	◆ ◆	◆			
14	14				淡路館	* 南館	◆	◆			
15	15				花桓館	花坂(上)館	◆ ◆	◆			
16	16				中野館	茶烟	◆	◆			
17	17	東中野	東中野	新山館	東中野字見石	◆ ◆	◆	◆			
18	18	東安庭	安庭	鳴西館	東安庭字館	◆ ◆	◆	◆			
19	19			安庭館	* 蝶ヶ森	◆	◆	◆			
20	20				東山	◆	◆	◆			
21	21	川目	川目	仁反館	川目	◆	◆	◆			
22	22			川目館	* 戸仲	◆	◆	◆			
23	23			芦作館	下米内字寺並	◆	◆	◆			
24	24		下米内	下米内	佐々木館	◆ ◆	◆	◆			
25	25		上米内	上米内	米内館	◆ ◆	◆	◆			

手塚伊織、範市氏(館布室文書)

田口氏?

綾瀬江吉

(一部零刊)

猪去斯波氏(斯波系圖)

太田勤角(奥津盛風記)

樺現坂

工藤行光(吾妻鏡)

福士慶壽(祐清私記ほか)

* (* *)

三上氏

葛西氏

仁反田忠常

川目館(同一家)

米内氏(諸家系圖)

地図 No	行政 変遷	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
26	昭 30 明 20 藩 政 盛岡市 仁王 仁王	盛岡城 志和城	不來方城	内丸 中太田方八丁	丘陵、城 平地、官衙	郭、堀、土塁 水田ほか	水田ほか	万八丁	南部行直ほか (内史跡) (旧跡遺聞)	関連城館
27	昭 30 明 20 藩 政 盛岡市 中下太田 下太田									

*遺跡未確認のものに次のものがある。向院・矢張館・至治館・劍山(以上上米内)、大志田古館(同太忠田)、阿部城、元信館(同元信)、山王館(同山王)

岩手町

地図 No	行政 変遷	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
28 1	昭 30 明 20 藩 政 岩手町 川口	沼崎館	川口	川口幡の上	平地	宅地	全体150×70m、東に北上川、西に北上川、東に長さ60mの空堀1。土塁2。			2
29 2		川口城					二郭。東方の小庭は40×40m。西方を大庭といいう。空堀2。部分的な腰郭1。		川口氏	
30 3	一方井 一方井 (新越)	一方井城	一方井13地割	丘陵	山林、烟 境内外	山林、烟 境内外	南北の2郭。北の郭は70×80mで堀2。南の郭は60×90m。西方に3重堀。その間に土塁。南部の東側に削平された段。		一方井氏	
31 4	一方井城 (古館)	イチョウ館 一本杉館	15地割	山林、烟 境内	山林、烟 境内	南北の2郭。北郭は30×70m。南郭は80×100m。土器も存在したらしい。				
32 5	黒内	黒内4地割	山林、境内	東西2郭。北と東方に空堀、西郭が生郭で、その両方に土塁。他に出丸あり。						3、4
33 6	沼宮内町 新町	沼宮内城 民部館	沼宮内11地割	山林、境内	山林、境内	規模300×180m。三郭と見張台。各郭には空堀がめぐる。			沼宮内民部常利	
34 7	御堂	尾呂部館	23地割	山林、烟	規模90×75m。東西に空堀と土塁。郭のみは50×60m。					
35 8	子抱	子抱館	子抱6地割	山城	山城	正陵下から山頂まで掘らしいものが詳しき不明。				
36 9	久保	落合館	9地割	山城	規模180×110m。主郭は70m四方で、南側に三重堀、腰郭あり。土塁2。4重堀をめぐらす。頂部の規模200×120m。4重堀をめぐらす。頂部の平場に堅穴様のもの12ヶ所。					
37 10		横田館	久保字横田	山林	規模100×60m。北は塙。東方に三重堀。一部に幅6mの土塁。					
38 11	江刈内	江刈内館	江刈内15地割	山林	規模170×140m。東方に二重堀、西方に三重堀。頂部に30m四方の平場。					
39 12	大坊	大坊館	19地割	山林						

石町

地図 No.	行 明	政 20	變 瀬	名 稱	別 稱	所 在 地	形 式	現 狀	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
40 1	西山村	長山	湯ノ沢館	長山字有根		丘陵、居館?	山林	算、空堀				
41 2			有根館		谷	平、城	△	主郭70×50m、腰郭、空堀?				
42 3			篠森館		館	平、城	△					
43 4			的館	篠森	篠森	平、城	△	空堀				
44 5			長山館	岩井花館	篠森	平、城	△	境内	主郭30×60m、腰郭、空堀、土塁			
45 6			土櫻館	等石城	中上	山頂、城	△					
46 15			柿木館	柿木	柿木	平地、屋敷	△	郭30×25m、空堀				
47 7	御明神村	上野	上野	上野字上相野		丘陵、城	山林、境内					
48 12			和野館	曾利館	曾利	平地、居館	水田、宅地					
49 13			天神館	天神	天神	平、城	△					
50 14			新里館	片子	片子	平地、居館	水田、宅地					
51 8	御明神	御明神	御明神	御明神字清水川前志戸前	山津田	山麓	山林	△				
52 10			大廟	大廟	山頂	山頂	△					
53 11			高見館	高見館	高見	山麓、居館	水田、稻					
54 9	櫛場	櫛場	小赤沢館	櫛場字明神下	万田渡	平地、居館	山林、境内	△				
55 16	等石村	等石	等石	北浦館	八卦麻見田	城	山林	△				
56 17				源太堂館	下町	丘陵	宅地、稻	△				
57 18			等石館	等石館	古箭	居館	山林	△				
58 19				矢川館	西安庭字矢川野	山頂、城	水田	△				
59 20	御所村	安遠	安遠	戸沢館	戸沢	平地、居館	水田	△				
60 21				田星館	下戸沢	丘陵、城	△	郭50×90m、40×50m、空堀、土塁				
61 22				舛沢館	除	平地、居館	山村	△	郭5×40m、100×60m、空堀、土塁			
62 23				矢櫻館	柄ヶ沢	丘陵、居館	山麓、城	△	郭、空堀			
63 24				大村館	南郷	山麓字上吉	宅地、水田	△				
64 25												

葛巻町

地図 No.	行 数	段 変	30 明	20 瀬	江刈 江刈	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
65 1	葛巻町	江刈	江刈	堀邊館	エゾ館	江刈字越道	木本	山城 段丘	山林 畠	平場を2本の空堀で区画。下位の斜面に虎口状。				
66 2				木本館			*	西里	丘陵	70×50mの平場の東方に空堀。西方に堀跡。				
67 3				西里館			*	車門	山城	規模50×100m。西方に堀跡。				
68 4				車門館			*	淺沢	段丘、堀城？	規模150m四方。東と北面に稜郭。堀4。				
69 5				山王館			*	栗山	山頂	山王神社境内。25m四方の平場の三方に稜郭				
70 6				栗山向館			*	栗田	*	詳細不明。				
71 7				栗田向館			*	小苗代	丘陵	*	*			
72 8				小苗代館			*	寺田	*	丘陵端部。約500m = 堀3。				
73 9				宗光館			*	大沢 真下	*	平場60×40m。北側に堀2本。南側に土塁状。				
74 10				戸花館			*	大沢 真下	*	規模160×95m前後。空堀3。				
75 11				真下館			*	打田内	*	南北2郭(100×85m, 85×80m)。中間に空堀				
76 12				鳩岡館			*	江刈川字高家館	*	(歩き80m×幅15m)				
77 13				高家館	エゾモリ		*	茶屋場字元町	*	規模50×80m。丘陵を二重堀で分断。北斜面に二重堀。				
78 14				上平館			*	域内小路	山城、丘陵	南斜面に土塁。頂部に土塁。各面に豊穴様のもの。				
79 15				元町館			*	田代字赤石野	丘陵	山頂部の60×50mか。詳細不明。				
80 16				葛參館			*	古川戸字裏方	山頂	一部に土塁状のもの。破壊で詳細不明。				
81 17				上野沢館			*	小田字後	山麓	規模200×100m。丘陵尾部を三重堀で分断。三段の平坦				
82 18				猪方館			*	小屋瀬字後沢	丘陵	基部、堀の痕跡に土塁。東部に大手口。				
83 19				小田館			*	小田字後	山頂	八幡館と繩張鉢、堤塁がかかるか。				
84 20				星沢館			*	見野字サドア前口	山麓	規模230×260m。頂部平田部180×50m。丘陵				
85 21				星ノ沢館			*	田部字寺畠	丘陵	のくばれ部に寺堀。鎧石？				
86 22				見野館			*	市部内	山頂	150m四方に空堀。西側に70×40mの平場。				
87 23				寺畠館			*	田部内	山麓	集落のX×100m。棲跡を三重堀で分断。頂部にも三重堀。				
88 24				冬部館			*	田屋	丘陵	平場端部に土塁。南は沢で区画。西方の				
89 25				田屋館			*		山林	丘陵を堀で切斷。西方の山陵を堀で切斷。				
										丘陵先端部。西方山陵を堀で切斷。北側				
										規模120×90m。平場60×20m = 堀150×100m。				
										に豊穴風のもの。平場に豊穴様のもの。				
										丘陵端部。規模120×80m。東方に空堀1。				

地図 No	行 昭 30 明 20	政 薦委町 薦委	変 宇別東館	遷 梯木館	政 宇別	別 梯木	格 中沢	所 小屋漸子大石	在 丘陵	地 中沢館	形 大石館	式 小屋漸子館	現 荒谷	状 荒谷館	構 地名	主 城主等(文獻)	備 阅連城館
90	26	薦委町	薦委	宇別東館	梯木館	梯木	中沢	小屋漸子大石	丘陵	梯木館	大石館	小屋漸子館	荒谷	荒谷館	山林、烟	詳細不明。	
91	27								※						平場2(50×50m、40×50m)。堀1。		
92	28								※						規模100×100m、頂部に50×60mの平場。北と南に空堀各1。		
93	29								※						規模70×30m。周囲斜面に段築成。		
94	30								※						焼塙100×50m。角部平場100m ² 。周囲経路4~9造成。そこには30ヶ所の堅穴様のもの。		
95	31								※						丘陵基部を堀で切断。南側に堅穴様のもの3段、堅穴様のもの。面積約1000m ² 。		

西根町

地図 No	行 昭 30 明 20	政 西根町 平崎	変 稲荷山館	遷 平崎	政 平崎城	別 平崎城	格 山城	所 平崎今鑑沢	在 丘陵	地 平崎城	形 山城	式 山城	現 山城	構 地名	主 城主等(文獻)	備 閲連城館
96	1	西根町	平崎	稲荷山館	平崎城	平崎城	山城	※	山城	平崎城	山城	山城	山城	山城	(岩手郡北における城館保有数について) 平部氏 堀切氏 北氏、または工藤氏、惟子氏	3、4
97	2				堀切	堀切	山城	※								
98	3				寺田	寺田	寺城	※								
99	4				寺田	寺田	寺城	※								
100	5				下牛内郷	下牛内郷	下牛内郷	※	斗内	下牛内郷	下牛内郷	下牛内郷	下牛内郷	下牛内郷	全体90×60m、西に土堀。他は斜面。	
101	6				田頭	田頭	田頭	※	居城	田頭字館越	田頭	田頭	田頭	田頭	全休300×130m。東西に堀、斜面に段築成。	工藤直祐
102	7				平立	新井館	新井館	※	平堂	新井館	新井館	新井館	新井館	新井館	松川北岸の低位段丘。飼田され詳細不明。	
103	8				寺田	赤門館	赤門館	※	惟子字川原目	丘陵	丘陵	丘陵	丘陵	丘陵	丘陵頂部160×90m。東方に空堀。西方に土堀。東方に荒木田川。その他の三方は二重の空堀。	惟子氏(天正頃)
104	9				荒木田	荒木田城	荒木田城	※	荒木田	荒木田	荒木田	荒木田	荒木田	荒木田	東南北2郭からなり。堀幅は230×120m。	荒木田光恒

玉山村

地図 No.	行 数	昭 30	明 20	蒲 政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
105 1	玉山村	轟川	轟川	轟田舎	轟川字轟米須		山頂	山林	規模140×90m。北高200mの部分を二重堀で 切断。堺部をもつ東西の2郭。 大館(150×70m)と小館(40×25m)の2郭。 堀・段築成もあり。 山頂の堀にかこまれた平場(130×90m)と腰 郭(1190×40m)。土堀。	前 館のぐし	五山氏 玉山或秀穂子大和?	3、4	
106 2	玉山	玉山	玉山	玉山館	玉山字館	二子沢	丘陵	山林	規模160×40m=2本の堀で3郭。 北斜面に2段。 規模200×100m。堀を作り3郭。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	2	
107 3				姫花館	姫花館	鮫花	丘陵	山林	規模200×100m。台地を呼んでいるが詳細不明。 100×200mの台地を呼んでいるが詳細不明。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	2	
108 4				日戸館	日戸館	日戸字古屋敷	丘陵	山林	規模160×40m=2本の堀で3郭。 北斜面に2段。 規模200×100m。堀を作り3郭。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	3	
109 5				祝の沢館	祝の沢館	祝沢	丘陵、單郭式	山林	規模150×60m。単郭。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	5	
110 6				川又	川口平館	川又字赤坂	丘陵、單郭式	山林	規模150×60m。単郭。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	5	
111 7				町川又館	町川又館	町の平	丘陵	山林	規模100m四方。単郭で山際に繋。 屋号に館がある。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	5	
112 8				堀館	堀館	中館	丘陵	山麓、單郭式	規模100m四方。単郭で山際に繋。 屋号に館がある。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	5	
113 9				平田野館	平田野館	下くらの館	丘陵	平地	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	11	
114 10				済民	済民	済民字大前田	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	2、5	
115 11				武道	武道	芋田字上武道	丘陵	平地	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
116 12				門前寺	門前寺	門前寺字館	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
117 13				下田	下田	下田字生出袋	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
118 14				川崎	川崎	川崎字向川原	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
119 15				松内館	松内館	松内字松内	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
120 16				卷堀	卷堀	好撃	中塚越	山頂	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
121 17				馬場	馬場	辨沢山館	山麓	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
122 18				巻堀	巻堀	えぞ館	えぞ館	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
123 19				馬場	馬場	馬場字伏小塙	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
124 20				卷堀	卷堀	卷堀字中道	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
125 21				馬場	馬場	馬場字中道	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
126 22				馬場	馬場	馬場字滝の沢	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
127 23				卷堀	卷堀	卷堀字西面	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
128 24				永井	永井	永井字鳥木沢	丘陵	山麓	水田、畠 規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。 南北郭前面に2段。	馬場、的場	日戸氏(川村飛騨守)	15	
129 25													

地図 No.	行 昭 30	政 明 20	支 藩政	名 永井	別 谷地田山	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文献)	関連施設
130 26	玉山村	泰庵	小谷崎館	木井字永井沢	単郭式	山林	南と西に二重堀。80×14mの単郭。					
131 27		巻堀	桑畠館	卷堀字桑畠	丘陵	単郭式	単郭で100×100m。西から南へ空堀。					
132 28		馬場	鷲巣館	馬場字田茂内	丘陵	単郭式	単郭で40×15m。南に堀1。北面に4段。					
133 29		渋氏	渋氏	渋氏字愛宕	山	単郭式	愛宕神社の50×30mの平場を城山という。					
134 30		川崎	山屋森	岩之沢	山麓	山麓	100×300mの平場。					
135 31		川崎	數屋森	川崎字川崎	平地	平地	100×36mの平場をもつ。照らしきものがあ					
136 32		卷堀	前田えぞ館	馬場字赤坂	山麓	山麓	るが詳細不明。					
137 33		馬場	二子館	太子堂	丘陵	丘陵	駒形神社東南に照らしきものもあるが。その					
138 34		轟川	新入塙敷館	鏡川字肝入塙敷	丘陵	丘陵	池は不明。					
139 35		轟川	向井塙敷館	向井沢	山麓	山麓	北高50m。三重堀で区画された平場。					
140 36			轟井塙敷館	轟井沢	丘陵	丘陵	比高40mの台地上に20×10mの平場。					
			轟井塙敷館	轟井沢	丘陵	丘陵	60×50mの単郭。北に空堀。					
			轟井塙敷館	轟井沢	丘陵	丘陵	30m四方の平場。東を沢が三方を空堀がめぐる。					

滝沢村

地図 No.	行 昭 30	政 明 20	支 藩政	名 大釜	別 大釜館	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文献)	関連施設
141 1	滝沢村	大釜	大釜	高麗館	大釜外館	平地、居城	変化され詳細不明。					
142 2				八幡館	大釜館	丘陵	規模100×80m。東方に土塁。南から東に空堀。					
143 3		大沢	大沢	エノ館	大沢越	丘陵	規模90×70m。北西に空堀。					
144 4		鶴岡	鶴岡	鶴岡屋山	鶴岡館	山林、宅地	南北250m×東西70mの規模とされるが、宅地化のため詳細不明。堀の一端残存。					
145 5		篠木	篠木	篠木館	篠木字上篠木	山林	比高30mの丘陵上。頂部に本郭。西に出郭をもつ。かつて掘もあり。					
146 6		大沢	大沢	大沢館	大沢字篠木	山林	比高20m。規模120×250m。一段の郭。南側に大走り、土塁、堀の一部が残存。					
147 7		篠木	篠木	參鶴の森館	篠木字參鶴森	山林	200×120mの独立丘陵。頂部に土塁。丘陵に空堀。					

松尾村

地図 No.	行政 変遷 昭 30 明 20 潤政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連施設
148 1	松尾村 松尾	小屋の沼湿地 集落	松尾小屋の武	山城?	山城?	山林	二ノ森の山頂部と対岸の丘陵山頂部に整穴群。 赤川と長川によつて侵食された丘陵の先端部。 赤川から西に延びる字地。	二ノ森	北愛一 (松尾村誌) 佐々木左京 (松尾村誌)	
149 2		北 館		下河館 左京館 櫛	* 中松尾 野駐字谷地中 館	山林	赤川の南の河岸段丘上。遺構は 北側の西側、赤川の南の河岸段丘上。遺構は みられない。			
150 3		佐々木館			*	山林	赤堀町田張との境の丘陵。山頂部に主郭の平 野敷館			
151 4	野社	野館		* 大沼	*	山林	鴨田山の東麓、鴨田川とアセ沼川に挟まれた 丘陵の先端部。小規模な平場と腰郭。			
152 5		寄木		寄木館	*	山林	周辺に沢が入る袖立丘陵で渾部に平場。西側 に空堀。			
153 6		野穂		野穂館	*	山林	神社裏手の丘陵、小規模な跡状の平場。			
154 7				田中館	*	山林	山林、島、 山境内			

紫波町

地図 No.	行政 変遷 昭 30 明 20 潤政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連施設
155 1	紫波町 土館	北片寄	寄物寺館	土館字寄物地	山頂、城	山林	郭、空堀、土壁			
156 2		上・下土 館	寺 館	深澤寺越	* 関沢	山麓	* 烟	*		
157 3			太郎館	山王海總	* 小清水	山地	*	烟		
158 4			菅森館		* 菅森	山麓	*	烟		
159 5			菅木館		* 田面木	丘陵	* 居館			
160 6			金田館		* 金田	山地	*	井戸、空堀		
161 7			浦田館		* 浦田	山地	*	煙		
162 8			愛宕山館		* 和山	山頂	*	煙		
163 9		赤沢	鉄馬館	赤沢字鉄馬	* 鉄馬館	丘陵	*	権		
164 10			船久保	船久保館	* 清水後	山頂	*	城		
165 11			田村館		* 加賀館	山頂	*	烟		
166 12			加賀館			山麓	*			
167 13			赤泥館			山頂、城				
168 14		大巻	古 館	大巻字上山		山麓				

地図 No.	行政 明 30	電政 20	名稱	別稱	所在地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主等(文献)	関連記述
169 15	紫濱町	大巻	大巻館	河村館	大巻字花立	山頂、城 平地、居館	郭、空堀、土塁、井戸	城山	河村秀興 (紫波郡誌)		
170 16			梅ノ木館		梅ノ木	烟、宅地	木田	館平	葛原義敏(長徳寺文書)		
171 17			赤川館		長沢尻	烟	木田		高輪朝(吾妻鏡) 南部信直(祐清私記)		
172 18			谷地館		宮手字谷地館	烟	木田				
173 19			陣ヶ岡		陣開	丘陵、陣場	山林、地内				
174 20			泉 館		泉屋敷	平地、居館	山林、地内				
175 21			久々館		久々館	平地	山林				
176 22	二日町 新田	二日町 新田	西側所		二日町字南七久保	丘陵	木田				
177 23			戸前御所		* 南山	烟	木田				
178 24			吉浜衛館		* 古館	山頂、城 平地、居館	山林、公園				
179 25			高水寺城		南日詰字箱清水	山頂、城 平地、居館	山林、公園				
180 26			桶爪館		* 南名川	山頂、城 平沢字的場	山林、公園				
181 27			善知鳥館		* 鎌	山頂、城 平沢字古船	山林、公園				
182 28			平沢		太郎館	山頂、城 平沢館	山林、公園				
183 29	佐社内	上・下佐社内	古 館		佐比内館	山頂、城 牛の頭	山林、境内				
184 30			牛ノ頭館		牛の頭	山頂、城 牛の頭	水田、烟				
185 31			平栗館		平栗	山頂、城 片寄字中平	水田、烟				
186 32			柳田館		片寄字中平	山頂、城 築	山林、森林				
187 33			中・南片寄		築	山頂、城 上久保館	山林、森林				
188 34					上久保館	築	山林、森林				
189 35					北田字星川	上久保	山頂、城 北田館				
190 36	北田	北田			北田館	北田館	山頂、城 北田館				
191 37			福藤		福藤	福藤館	山頂、城 福藤館				
192 38			大吹森		東 館	大吹森館	山頂、城 江柄館				
193 39			大吹森		江柄	江柄	山林、城内				
194 40							*				

地図 No.	行政 変遷 昭36	明20	舊政 改	名稱	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館	
195 41	紫波町	遠山	遠山	高間館	西野館	遠山字西野ヶ 中島館	山頂 平地、丘陵	山林 水田、宅地	境内	山林	板内秀綱(紫波町史)		
196 42			桶内	桶内			桶内字柄内	烟	山林 配水場	水田、宅地	中島安将(奥南落穂集)		
197 43			中島	中島	中島城	中島字上長根	山頂、城 丘陵	山林、境内	水田	長岡氏(南部古美記)			
198 44			東長岡	東長岡	長岡館	東長岡字前	山頂、城 丘陵	山頂、城 丘陵	烟	彦部氏(彦部村誌)			
199 45			大湖	大湖	西田館	大湖字西田	山頂、城 丘陵	山頂、城 丘陵	水田	北条氏(紫波町史)			
200 46			彦部	彦部	機織館	彦部字機織	山頂、城 丘陵	山頂、城 丘陵	烟	星山左馬糸(奥南落穂記)			
201 47			北日詰	北日詰	北日詰館	北日詰字城内	平地、居館	平地、居館	烟、宅地	水田	松本津兵衛(紫波郡志)		
202 48			星山	星山	星山館	星山字閑野村	水田	水田	水田	城内			
203 49			下松本	下松本	松本館	下松本字下二合	水田	水田	水田				
204 50			上松本	上松本	山館	上松本字内分	山地	山地	山地				
205 51													

矢巾町

地図 No.	行政 変遷 昭30	明20	舊政	名稱	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
206 1	矢印町	不動	白沢	白沢館	谷地館	太田館	平山城 屋敷?	公園 水田	主郭(132×33m)、腰郭、空堀?など。腰郭に能野神社。	白沢百助		
207 2			太田		庄主館		山城	山林	造構は確認できない。	太田元春・師直?		
208 3			北伝法寺		岩清水館	北伝法寺字薪前	岩清水字城内	山林	主郭(32×22m)、腰郭(11m数段)、2~3段の空堀、主郭跡、神社、施物跡、石碑、塚など。尾根は三重の空堀で区画し、中腹に熊野神社跡。	岩清水氏?		
209 4			煙山		煙山館	吉兵衛館	煙山	山林	主郭(60×36m)、腰郭(10數段)、尾根は三重の空堀で区画し、中腹に熊野神社跡。	煙山主殿?		
210 5			德田		高田館	高田字北田	高田城 屋敷?	山	主郭(31×16m)、腰郭(10數段)、空堀、大走りなど。主郭に石組造築、中腹に觀音堂、立石など。主郭が一部に遺存、鎌倉時代の古碑。	高田吉兵衛?		
211 6			西德田		徳田館	字五百刈田	平城?	山	確実な遺構はない。	徳田知節?		
212 7			煙山		いたこ館	煙山字篠ヶ平	山	所在地不明				
213 8			不動		室闇館	久保屋敷	七地	水田	柱立柱建物跡、溝、土塹など。	室闇源氏?		
214 9			徳田		徳丹城	西徳田	平城	水田ほか	内郭、外郭ほか。			
215 10												

都南村

地図 No.	行 昭 30	政 明 20	遷 藩政	名 古館	別 見前館	称 所 在 地	形 式	現 状	構 造	地 名	域 主 等 (文 獻)
216 1	見前村	東見前	古館	東見前字古館	西見前字館	見前館	平壠	島、宅地	館食部	関連城館	
217 2		西見前	西見前	上飯岡	上飯岡	上飯岡	水田、島、	戦前に土器と、それに沿う空堀が見られた。	館		
218 3	飯岡村	上飯岡	上飯岡	飯岡館	飯岡館	南中野館	水田、島、	水田中の巣高施。遺構はほとんど確認できぬ。			
219 4				飯岡新田	飯岡新田	永井館	水田、島、	秋葉神社境内からその背後へかけて、土器、空			
220 5				永井?	上水井?	大館	水田、島、	器がみられ、腰算を数段めぐらす主郭へと続く、			
221 6				湯沢	湯沢	羽場館	水田、島、	土器状の高まりがあつた。			
222 7				羽場	羽場	小館	水田、島、	水牛小学校敷地に接する水田。かつて柱根が			
223 8	乙部村	乙部	乙部	乙部	乙部	乙部館	水田、島、	出土した。			
224 9	大ヶ生	大ヶ生	大ヶ生	大ヶ生館	大ヶ生館	大ヶ生字城内	水田、島、	竹原城の北から東面の一部にかけた空堀。			
225 10	黒川	黒川	黒川	黒川館	黒川字沢田	黒川字沢田	水田、島、	郭の北と西を空堀で切り、北に櫓郭、西にこの郭。			
226 11	手代森	手代森	手代森	手代森	手代森	手代森字館	水田、島、	乙部川の北岸に空堀を四ヶ所切り、北			
							島、宅地、	面に腰郭状の平坦部をとる。			
							水田、島、	張り出した丘陵の付け根を空堀で切断。各郭			
							島、宅地、	と間からも空堀。			
							水田、島、	高麗山から西に延びる丘陵を空堀で切断。西			
							境内外	側斜面に腰郭。			
								沢口山の西麓、北面は沢、南面に空堀。主郭			
								西南部に腰郭。			

花巻市

地図 No.	行 昭 30	政 明 20	遷 藩政	名 古 寺	別 称	所 在 地	形 式	現 状	構 造	地 名	域 主 等 (文 獻)	関連城館
227 1	花巻市	湯口	円万寺	円万寺	古 萬 目 館	中根子中館	山城	現円万寺觀音堂のある山地一帯。斜面に細い			円満寺氏	
228 2			中根子	中根子	萬 目 館	萬 目 館	平城	裏路250m、南北300mの規模。壇と土器とに区画された。三			根子馬助	
229 3			鉛	鉛	鉛	鉛字館	丘陵	基をもつ。東端の壇は幅10-15m、段を100mほど。自然				古館
230 4			太田	太田	太田	太田字下浦	境内、林	堤道に手づ標を極端に極めて狭い。				館
231 5			樋間			樋間字内沢	樋田	豊尻川上流の右岸丘陵部。詳細不明。				
232 6			中曾間			中曾間	平地	昌観寺の東側、豊沢川右岸の比高6mの段丘				
233 7			柄内			柄内	境内、七地	にある。空堀と土塁が残る。				
234 8			轟木			轟木	水田	所在地不明。				
235 9	渕本	小瀬川	小瀬川	小瀬川城	渕本字小瀬川	渕本字新主館	境内、七地	宇南川右岸にある比高2mの低台地。東側台				
236 10		金矢	溝ノ館	溝ノ館	溝本金矢	溝本金矢	水田	地基部を高砂堀で切断。				
							水田	八坂神社付近一帯50m×60mほどの区画で土				
							水田	堤あり。				
							水田	堤間の各街道が集結する場所。高い土塁を方				
							水田	形にめぐらし、その外側を水堀で区画。				
							水田	内郭は櫓割川の合流点。台地の基底部を腰郭で切断。内郭				
							水田	は輪郭の2郭に分けられる。台地に土塁、堀がある。				
							水田	台地右岸に突き出た白石上。比高15m。台地を				
							水田	堀で三郭に区画しているが、東半分は消滅。				
							水田	手代森秀親(柴波配忠)				
							水田	手代森秀親(柴波配忠)				

大迫町

地図	行	列	変遷	名	別	所	在	地	形	式	現	状	構	地	名	城	主	等	(文獻)	関連城館
257	1	大迫町	亀ヶ森	亀ヶ森	御所方館	衣更着館	龜ヶ森羽黒堂	丘陵、居城?	山林、烟	山城	丘陵	段丘面を削り断てた形上。北側を削り断てた形上。北側を削り断てた形上。北側を削り断てた形上。	山林	館、馬場	衣更着掛部?					
258	2				御堂鼻館	杉館	* 沼烟	山城	山林	丘陵	*			麓駆山						
259	3				山根館 I		* 鮎	山城	山林	丘陵	*									
260	4				八幡館	小館	* 沢田	山城	山林	山城	*									
261	5				山根館 II		*	館	山林	山城	*									
262	6				八幡館	龜ヶ森城	* 館	三日市	山城、原城	段丘上、運郭式?	*									
263	7				八幡館	内館	* 大迫ぶどう沢	大迫町	山林	山城	*									
264	8				藤館	中野館	* 川原町	与五助館	山林	山城	*									
265	9				天神館	藤四郎館	* 下町	内川目古跡	内川目古跡	台地上	*									
266	10				日除館	古館	* 薩南	大迫城	山林	山城	*									
267	11				雲南館	右近館	* 沢	内川目	内川目古跡	段丘上	*									
268	12				馬場館	桂林学館	* 山頂	大迫城	山林	山城	*									
269	13				雲南館	水戸屋敷	* 沢	内川目	内川目古跡	段丘上	*									
270	14				馬場館	日向館	* 八木沢	大迫城	山林	山城	*									
271	15				備館	小付内館	* 向村	内川目	内川目古跡	段丘上	*									
272	16				高森	鍋屋敷館	* 錦屋敷	大迫城	山林	山城	*									
273	17				米治森館	折壁館	* 黒森	内川目	内川目古跡	台地上	*									
274	18				中ノ見館	中ノ貝	* 中ノ貝	内川目	内川目古跡	山頂	*									
275	19				高館	サツケノ館	* 久出内	外川目下中居	外川目下中居	山頂	*									
276	20							田中	山頂	山頂	*									
277	21																			
278	22																			
279	23																			
280	24																			
281	25																			

地図 番	行政 変遷 昭30明20藩政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	地 名	城 主 等 (文 部)	関連城館
282	26 大迫町 外川目	館の森	外川目田中	松原館 沼津鐵道 沼津駅	段丘上 山頂	平場があるが、詳細不明。平場48×31m。 尾根2カ所で尾端1、北・東面に幅3~4m の帯郭。平場は32×10m。 他の又前 岩壁館	宅地、畠 山林	八木卷沢崎 佐々木左近?	的場
283	27	八木卷館	八木卷館	八木卷館	山頂	尾根2カ所で尾端1、北・東面に幅3~4m の帯郭。平場をもつて山頂をめぐる。平場は30×7m。 が、帯郭と尾根は30×30mほど。	畠、山林、 墓地	岩船帶刀?	的場
284	28	他の又前	他の又前	他の又前	山頂	尾根2カ所で尾端1、北・東面に幅3~4m の帯郭。平場をもつて山頂をめぐる。平場は30×7m。 が、帯郭と尾根は30×30mほど。	畠、山林、 墓地	岩船帶刀?	的場
285	29	岩壁館	岩壁館	岩壁館	山頂	尾根2カ所で尾端1、北・東面に幅3~4m の帯郭。平場をもつて山頂をめぐる。平場は30×7m。 が、帯郭と尾根は30×30mほど。	畠、山林、 墓地	岩船帶刀?	的場

石鳥谷町

地図 番	行政 変遷 昭30明20藩政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	構 造	地 名	城 主 等 (文 部)	関連城館
286	1 石鳥谷町 好地	大瀬川	大瀬川	猪山、古館 瀬川城、旧館	山城、居城?	山林、 高速道 山林、畠	山林、 高速道 一部に土壁。	瀬川忍守外	瀬川忍守外	瀬川忍守外
287	2 富沢	芳 鮎	富沢	富沢	山頂?	山林、水田 地内	山林、水田 地内	富沢氏、 堀子田	富沢氏、 堀子田	富沢氏、 堀子田
288	3	轟	轟	轟	段丘上、達郭式	山林、水田 地内	山林、水田 地内	轟	轟	轟
289	4	長谷堂	長谷堂	長谷堂女鳥沢 大興寺	山頂	山林、境内	山林、境内	河野通重外	河野通重外	河野通重外
290	5	大興寺	大興寺	大興寺	山頂	山林、境内	山林、境内	山林、境内	山林、境内	山林、境内
291	6	堀の内	堀の内	学松田	平地	水田、宅地	水田、宅地	水田、宅地	水田、宅地	水田、宅地
292	7	北寺林	北寺林	北寺林字佐手花	丘陵	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田
293	8	八幡	八幡	中寺林字鏡前	平地	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田	山林、宅地、 水田
294	9	好地	好地	好地字數馬	段丘	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠
295	10			上好地	平地	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠
296	11			青葉台	"	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠
297	12			小 嶺	丘陵	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠	水田、畠
298	13				段丘	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地
299	14	八幡	黒沢	黒沢字道海	平地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地
300	15			田の尻	"	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地
301	16			小森林	小森林	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地
302	17	江曾	古 筵	江曾字深根	丘陵、居城	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地
303	18			江曾館	北館、中館	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地	水田、境内、 宅地

黒沼清太夫?
小森林治郎
藤原源太弘様外、柳館と連なる可能性あり。

地図 No	行政 変遷	名 称	別 样	所 在 地	形 式	現 状	種 様	地 名	城 主 等(文 獻)	関連城館
304 19	石鳥谷町 八幡 江曾	柳館	矢の日館	江曾字柳館	平地	山林、畠	柳館	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。	安倍氏、柳原氏、江曾前と連なる。	18
305 20	新堀 新堀	新堀城	新堀城	新堀字桜野 上館 新仙寺館	山城	山城	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。	新堀作兵衛、江曾長作外	23, 24	
306 21		殿屋敷	殿屋敷	北島	平地、屋敷	水田、宅地	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。	20	
307 22		土塙	侍從館	長谷場	屋敷	畠、境内	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	20, 23	
308 23		下館	侍中館、中経	塚原	屋敷	山林、畠地	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	
309 24		堀子田	中野	中野	丘陵、居城	山林、畠地	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	
310 25		戸塚	明戸	平地	田畠	田畠、境内	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	柳館 柳が葉を落すと柳館と呼ばれる。柳川川の脇に立つ。北上川東岸に立つ。	
311 26	八重畠村 戸塚	赤間館	戸塚	戸塚	丘陵	山林	戸塚の東方丘陵地。不明。	戸塚	戸塚	戸塚
312 27	八重畠村 滝田村	滝原館	滝原館	滝原	平地	田畠、宅地	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	滝田	滝田大学	戸塚
313 28		瀧館	瀧館	瀧	丘陵	田畠、宅地	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	戸塚	戸塚	戸塚
314 29		大川原館	大川原館	大川原	平地	田畠、宅地	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	大川原	大川原氏?	戸塚
315 30		閑口村	下館	閑口	丘陵	田畠、宅地	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	閑口	閑口氏	戸塚
316 31		閑口村	中館	中館	平地、連郭式	田畠、中庭	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	閑口	閑口主膳 (ここがが主膳か)	戸塚
317 32		閑口館	南館	閑口	丘陵	田畠、中庭	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	閑口	閑口主膳 (ここがが主膳か)	戸塚
318 33		猪鼻	猪鼻字曲谷地	猪鼻	屋城	田畠、中庭	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	猪鼻	猪鼻 (宍落) 同一人物?	戸塚
319 34		猪鼻	広済寺館	猪鼻	屋城	田畠、中庭	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	猪鼻	猪鼻 (宍落) 同一人物?	戸塚
320 35	八重畠	八重畠館	八重畠字節	八重畠	平地、連郭式	田畠、中庭	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	八重畠	八重畠官憲守。八重畠前守	戸塚
321 36	五大堂	隅っこ館	五大堂	山城	山城	山城	戸塚川を南に臨む丘陵上。東西・南北に一部 塚と土塁。面積は3,500m ² ほど。	五大堂	五大堂	戸塚

東和町

地図 No.	行政 明 30	要 20	瀬 蒲政	名 橋	別 安侯	所 在 地	形 式	現 状	通 横	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連文献
322 1	東和町	十二鋪	安侯	安侯城	押輪館	六本木	平城、連郭式	宅地	館、館小路 古館 高館、櫓館	安侯、小原氏 小原時義		
323 2				金糞館		六本沢				小原(金糞)四郎		
324 3				星乳館		六本木						
325 4				高館		六本木						
326 5				曉山館		東曉山						
327 6				東曉山								
328 7	小山田	上小山田	小山田館			上小山田字南						
329 8	中内	南成島	成島館			南成島	11城					
330 9		春沢	春沢館			中内字春沢						
331 10				宿 館		書沢字宿館						
332 11		浮田	車 館			上浮田						
333 12		石持	鍛冶館			石持						
334 13		宮田	宮田館			宮田						
335 14	谷 内	倉 民	倉沢館			倉沢						
336 15	中 内	田 濱	堂地館			田濱						
337 16			田 濱			田濱						
338 17			安信館									
339 18	谷 内	寶果堂	古 館									
340 19		小原	経ヶ森館			小原						
341 20		館追	船追館			谷内						
342 21		谷 内	花 館			江刺城	土足城					
343 22		十二鋪	十二ヶ			江刺城	土足城			平山城	公園、他	江刺氏

北上市

地名	行	政 變	遷	名 稱	別 稱	所 在 地	形 式	現 狀	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館	
344	昭	30	明	20	藩 政	相去城	鶴野館	相去町山根	丘陵、詰城	山林 宅地・畠 荒地	南北250m、東西200m。主郭(100四方)の周囲 と丘陵基部に土塁と空堀。東側面に腰壁。 南北約100m、東西60m。単郭式。後背(南側) に幅約7mの堀切路。 開田工事で破壊。安永の郷土記書上げに東西 表施、東北31間とあり。 牛頭天王境内(東西50m、南北40m)以外に 遺構不明。	相去安芸(仙台領古城書上) (安永郷土記書上)	
345	1	相去町	相去	相去	岩の日館	岩の日	丘陵、居館	段丘、居館	○ ○	山林 宅地	和賀氏一時立籠る 道正(仙台領内古城書上)		
346	2			高前田館	大谷地	大谷地	丘陵	○	○	山林 宅地	門岡三郎・同四郎(北上市史)		
346	3			館前館	六源上ノ町	六源上ノ町	丘陵	○	○	山林 宅地	菊池氏(北上市史)		
347	4			谷地館	大谷地	大谷地	平地	○	○	山林 宅地	及川若狭守種 (仙台領内古城書上)		
348	5			道正森館	六源道正森	六源道正森	丘陵	○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
349	6			一夜館	輪岡	輪岡上門岡	丘陵	○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
350	7			船瀬町	船瀬	門岡	平地、居館	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
351	8			松ノ館	内門岡	内門岡	平地、居館	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
352	9			曾館	曾館	山頂、詰城	段丘、居館	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
353	10			八王字森館	八王字森館	下門岡	丘陵、詰城	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
354	11			畜羽堀城	口内町鷹岩	口内町鷹岩	丘陵、詰城	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
355	12			青丸館	下口内	下口内	小屋館	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
356	13			小屋館	長潤	長潤	丘陵	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
357	14			荒野原館	金峯山	金峯山	丘陵	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
358	15			桜館	荒削	荒削	低丘陵・尾崎	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
359	16			下口内古館	草刈場	草刈場	丘陵	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
360	17			柴川館	飛	飛	丘陵	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
361	18			新山館	長坂	長坂	山林	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
362	19			八谷崎館	松原	松原	居館	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
363	20			津牛城	小池	小池	平地	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
364	21			小池	中里敷古館	古館	段丘、居館	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
365	22			水押	中山館	中山館	丘陵	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
366	23			樅ノ木田	古館ノ木田城	古館	丘陵	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
367	24			樅ノ木田	大和館	大和館	詰城	○ ○	○	山林 宅地	及川李助(風土記御用書出)		
368	25			樅ノ木田古館						山林	樅ノ木田大和 (風土記御用書出)		

地図 No.	行 昭	歛 30	明 20	満 歿	変遷	名 標	樹 種	所 在 地	形 式	現 状	構 造	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
369 26	黒沢尻町	立花	立花	桑	館	安倍郡	黒沢尻町立花字御野	段丘、防護	七地、畠	東西南北約100m、南北約150m。立地。土壇。立狹材。草葺。	泉屋敷	伝泉三郎(「和賀郡誌」)		
370 27			陣ヶ丘	陣ヶ森				山頂、詰城	山頂、	南側普通檜林。土壇。立狹材。草葺。	公園	伝源義家(「北上市史」)		
371 28			高 館		館		宇垣釜	丘陵、	~	東西北約100m、南北約200m。主郭を主洋とした複郭。縦約5mの堀と算察。早朝拝所。主郭北側に土塁。主郭北側に土塁。主郭北側に土塁。主郭北側に土塁。主郭北側に土塁。	山林	伝藤原仲光(「和賀郡誌」)		
372 29			立花館				宇箭	平地、居館	七地、畠	東西北約200m、南北約200m。5重以上上の複郭だ。主郭北側に土塁。主郭北側に土塁。主郭北側に土塁。	山林	伝万内源次郎(「北上市史」)		
373 30			明 城				黒岩字山根	丘陵	山林	小田馬正三宅集。遺構不明。	前城	前城	初期は和賀義行か。且垂義信(「鬼城文書」「和賀郡分限跡」)	
374 31			黒岩城	岩崎義、千曳城			宇下岩崎	段丘、居館	七地、寺院	東西北約200m、南北約500m。主郭の千曳城と外郭からなる。元倅と主郭周圍に土塁。	山林	伝小田鶴氏(「北上市史」)		
375 32			二坊木越				宇三坊木	~	細	中央櫓付近が大範囲。遺構とも不明。	山林	和賀氏(「邦内郷村誌」)		
376 33			馬沼館				宇馬沼	丘陵、尾崎	~	南面約150m×100mで自然崩。遺構不明。	山林	高橋重藏(「和賀郡分限跡」)		
377 34	更木町	更木	更木	更木			更木町市ノ川	平地、	水田	遺構不明。	水田	伝八重松氏(「和賀郡分限跡」)		
378 35							市野川原筋	~	宅地、畠	輪圓、遺構とも不明。	宅地	伝小田鶴氏(「北上市史」)		
379 36							堀ノ内	~	~	東西北約200m、南北約400m。泰相として広く被據。北面に数段の腰折、丘陵部に築切。	山林	和賀氏(「邦内郷村誌」)		
380 37							更木館	大竹字館	平地、居館	北上川の川欠で消失。	河川敷	多田宗純(「和賀氏」)(「添姓と和賀系図」)		
381 38							野中館	~	山頂、居城	開田工事や余地。所持もあつたというが現との地名不明。	山林	小原藤次郎(「和賀郡分限跡」)		
382 39							梅ヶ沢城	梅ヶ沢	丘陵、居館	東西北約100m、南北約150m。主郭周圍に空堀。南側斜面に二段の腰折。その外腰折。	山林	更木主水正(「和賀郡分限跡」)		
383 40							下久野城	八天	山頂、居城	南北約150m。東西約100m。遺構不明。	山林	梅ヶ沢氏(「和賀郡分限跡」)		
384 41							羽久保館	丘陵	草地	東西北約100m、南北約150m。主郭周圍に空堀。南側斜面に二段の腰折。その外腰折。	山林	越塙舍右エ門		
385 42							天王館	~	宅地、水田	下田保數ともいう。範囲遺構不明。	山林	小田嶋氏(「北上市史」)		
386 43	黒沢尻町	立花	立花	火			山王館	丘陵	山林	屋号地内。東西北約200m、南北約100m。面積約2haの複数の南側に幅約8mの掘割。	山林	平沢氏(「更木村誌」)		
387 44							燧ノ内	~	山林	赤坂から平沢に境する一帯の高台地という。	山林	晴山隼人(「~」)		
388 45							柿ノ木館	平地、居館	七地、居館	大竹字櫻の木から臥牛長根にかけてといふ。遺構不明。	山林	松ヶ沢六郎		
389 46	更木町	更木	更木	道見館			李繁田	丘陵、	山林	象山の上で松ヶ澤といい高地というが遺構不明。	山林	小田嶋氏(「~」)		
390 47							更木町大竹	~	~	東西北約120m、南北約140m。馬頭状の複郭。南側に常陸堀。東後背に堀。	山麓	伝嵯ヶ石鷦子、鮮ケ沢氏(「~」)		
391 48							山寺惣ヶ原	臥牛字長根	山頂、居城	歐牛觀音堂を中心とする約2ha。遺構不明。	山麓	飯豊城	飯豊町が中城部落をつけたあたり。遺構不明。	
392 49							臥牛	臥牛字長根の原	平地、居館	東北約50m、南北約100m。頂部に狭い平場、南斜面に4段の梯状堤堰。	山頂、居城	飯豊城	飯豊町が中城部落をつけたあたり。遺構不明。	
393 50	飯豊町	飯豊	飯豊	飯豊			十文字	山頂、詰城	山頂、詰城	神社境内山林	飯豊城	飯豊城	飯豊城	
394 51													51	50

地図 No.	行 政 区 段 No.	政 變 遷 期 別 稱	所 在 地 名	形 式 現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連地名
395	52	板豐町 板豐	成田	岩田堂館 小・館	山頂、峰城 平地	八幡神社境内、遺構不明	岩田堂隱岐 赤坂鑿頭 成田氏	62
396	53			成田	段丘、尾館	小館と称する屋号あるが遺構不明。		
397	54			成田	水田	東側南北約200m、後背切、開田によって全面破壊		
398	55	黒沢尻町 里分		黒沢尻 古城場	平地、居館、城櫓 宅地	方八丁の西方地名。範圍遺構不明。	伝安倍正任 ('施美話記')	27
399	56			黒沢尻 八方丁	黒沢尻町中川岸 上川岸	黒沢尻尾跡の北側をいう。遺構不明。	伝源義家 ('利賀郡志')	
400	57			角陣場	" " "	東西約100m、南北70m。東西2ヶ所からなり、東に茶郭、西と南に籠郭5mの掘。	伝安倍奈任	
401	58			二子町 二子	二子町小鳥崎 才羽鳴鶯	下川岸 才羽場 平地	館下、千刈 簡井越縫介	62
402	59	二子町 二子		鶴渡櫛	" " "	二子幼稚園付近といふ。範圍、遺構不明。	伝源貞貞則	56
403	60			二子城	山林、宅地 守松境内	東西約500m、南北約100m。見前。重正原敷地に櫻。前面に草壁。出城あり。	馬場野・均館 宿 "	
404	61			鬼柳町 鬼柳	丘陵、尾城 段丘、尾館	東西約420m、南北約200m。7集からなり。櫻や土塁 が残るが一部から三の段まで破壊。	鬼柳義昌 ('鬼柳集')	64
405	62			飛勢城	飛勢城 羽場館	東西約300m、南北約250mで3集からなり。主郭破壊。	鬼柳伊賀守 ('鬼柳文書')	63
406	63	鬼柳町 鬼柳		鬼島館	丸子館	西裏 崎山館	丸子 南館	
407	64			丸子館	下鬼柳 白堀館	白堀神社境内 (生垣50m×15m) と掛船殿音堂境内 (20m ×15m) からなる。遺構不明。	旧鬼柳小学校跡地。約100m四方か。遺構不明。	
408	65			都鳥館	都鳥館	白堀神社境内 (生垣50m×15m) と掛船殿音堂境内 (20m ×15m) からなる。遺構不明。	都鳥	
409	66			柳上館	柳上館	東西約50mの沿継で、南側は石垣で、内側に古墓とは云 はれたが全面破壊。谷の両側に一郭あり。羽場館は二 重塁 (重塁) 用意すという地が田中17番にあり。この付近 を走るともい。	鬼柳伊賀守 ('鬼柳手写管絃地記')	
410	67			上鬼柳	上鬼柳	鬼場女守桓義、則念隱岐。	葉場女守桓義 ('鬼場部分限跡')	
411	68			願念館	願念館	地跡		

和賀町

地図 No.	行政 明 30	変遷 20	藩政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	地 名	城 王 等 (文 献)	開運城館
412 1	相賀町	岩崎	岩崎城	岩崎城	岩崎城 下須ヶ浜館	岩崎城 煙孫	段丘、平山城	公園。烟 神社境内 烟、山林	岩崎跡右工門	21	
413 2					煙孫	タテ	段丘、平山城	煙孫字總音齋 山口字福田	煙孫下野守治養 福田氏か		
414 3	山口	1111	福田館	福田館	福田館	福田館	段丘、平山城	福田前面上常第。 東西南北約100m。南側2重塔西側にも堀。幅 約7m深さ約3m。単郭。	煙部吉直	1	
415 4								感測、盗掘探査による。	和賀基義後に煙孫上野介義重か。		
416 5								東西南北約200m。沼を境に新(林崎 館)旧の郭あり。高架後背に堀・土器。	本郷		
417 6								東西南北約60m東西60mの方形軍郭。周囲に輪6m の堀。東西南北約100m。南北一部堀切にて分断。 縄張約6m深さ2m。土塁一部残在。	運動場		
418 7		1111	月館					輪廻・遺構不明			
419 8			田中館								
420 9			馬場館								
421 10			下仙人館								
422 11			岩沢								
423 12		横川日	山口								
424 13			横川日								
425 14			横川日								
426 15			横川日								
427 16			横川日								
428 17			長沼								
429 18			藤原								
430 19			藤原								
431 20			岩崎								
432 21			岩崎								
433 22			岩崎								

湯田町

地図 No.	行政変遷	名 称 别 称	所 在 地 形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連城館
434 1	昭 30 明 20 薩 政 湯田町	湯田 藤倉館	山頂、見張台	山林	八幡失つくし派	小田崎氏の見臺所か、 佐ハ幡太郎義家		
435 2		八幡館	無地内	神社境内	伝安倍貞任			3
436 3		安倍館	川尻字館	ダムサイド				2
437 4		川尻館	段丘、居館	宅地	中館左衛門財			
438 5		中館	山頂、居城	山林				
439 6		虎間館	平地、屋敷	墓地				
440 7		虎館	山頂、居城	山林				
441 8		左草館	下前	*				
442 9		とんねじろ	上左草 機械館	山林	とんねじろ			
			機械館	丘陵				

江釣子村

地図 No.	行政変遷	名 称 别 称	所 在 地 形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連城館
443 1	昭 30 明 20 薩 政 江釣子村	下江釣子 五条丸	平地、民館	宅地・水田	西第70m×55m、東第50m×65m、後背(北側)に築跡と土塁。	前題	不明	
444 2		江釣子城	* * 宿	山林等社地内	東西95m、南北50mの軍郭、後背(北側)に築10~25m、深さ3mの堀跡。	江釣子民部 (利賀郡誌)	3	
445 3		江釣子	上江釣子林妻	水田	東西約120m、南北約80mの方形で高郭あり。東西約120m、南北約80mの方形で高郭あり。	前題は利賀家臣野田氏か後、江釣子氏の居館。	2	
446 4		新平	新平館	山林	東西約80m、南北約120mの軍郭、幅約4m、深さ約1.5mの堀跡。	鬼柳氏か ('鬼柳文書')		
447 5		鳴頭崎	鳴頭崎二糸 滑田	水田・地	北側と西側に土塁と堀跡。東西約75m。南北約60mの軍郭式			
448 6			滑田下構塚古窓	水田	東西約60m南北約65m、北と西に幅約3mの堀跡。	範囲不明、近世の環濠屋敷か		
449 7			新平環濠整	宅地	東西に長さ約40m、南北に約60mの築路(幅約5m)。	宿号「大日平」	旧新平の軒入宅	
450 8		江釣子	田代主殿屋敷	屋敷				

内村沢

市 沢 氷

地図 No.	行 昭 30	改 明 20	變 満 政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	地 名	城 主 等	(文 獻)	関連城館
465	1	水原市	佐倉河	八幡	上 鮎	古 蔵 遠瀬館	佐倉河字八ツ口	平地連郭式	果樹園	平場、堀。	(安永風土記)	
466	2				鮑沢城	方八丁	波田他	平地単郭式	水田ほか	内郭、外郭。	()	
467	3				館	長崎越 ダ川端館	北館	居七	宅地ほか	平場。	()	
468	4			佐野	佐野館	タチツノガケ	宿	単郭式	畠ほか	平場。	()	
469	5				下河原	御伊勢館	白井坂	連郭式	宅地ほか	平場、堀。	()	
470	6				堀ノ内館	上 鮎	齋堂	居宅	雜種地	()		
471	7				毘沙門館	南 鮎	天井町	+	水田ほか	詳細不明。	()	

江刺市

地図 No.	行政 昭30明20藩政	変遷 伊手	名 称 别 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文献)	関連施設
498 34	水沢市	羽田	齋沢	寄宿館	山地	*	山林	堀、平場ほか	(古城書上)	
499 35		黒田助城	黒田助跡	館	門下	*	輪郭式	*	(安永風土記)	
500 36		黒石	黒石	黒石町字越ノ木	丘陵單郭式	*		平場ほか	()	
501 37		總城館	總城館	山地	輪郭式	*		*		
502 38		下谷館	下谷木	下柳	丘陵居宅	*		*		

地図 No.	行政 昭30明20藩政	変遷 伊手	名 称 别 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文献)	関連施設
503 1	江刺郡 江刺町	宇津良館	下 館	伊手字新山	丘陵、不明	烟、宅地				
504 2		陣馬館	宇津良	山城	丘陵、不明	烟				
505 3		健久館	沢田	山城	丘陵、不明	烟				
506 4		小野間館	久田	山城	丘陵、不明	烟				
507 5		上 館	松ノ木田	山顶	*	烟				
508 6		菊池館	館ノ下	山城	丘陵、居城	烟				
509 7		古 鎧	宇馬場先	伊手、隅川	丘陵、居城	烟				
510 8		山谷館	地ノ神	水田	丘陵、境内	烟				
511 9		荒谷城	荒谷	境内	丘陵	水田				
512 10		愛宕古館	愛宕	山城	丘陵、境内	水田				
513 11		天久館	藤里字石名田	前田	丘陵	水田				
514 12		沼尻城	沼尻	山城	丘陵	水田				
515 13		掛ノ上館		山城	丘陵	水田				
516 14		大平城	大平館	山頂、不明	丘陵	水田				
517 15		長志田城	芦ノ口	山城	丘陵	水田				
518 16		倉迫城	寺沢	山城	丘陵	水田				
519 17		妻ノ神館	藤里字本村	丘陵、居城	丘陵	水田				

地図	No.	行	政	変遷	20	満	20	満	政	名	格	別	格	所	在	地	形	式	現	状	地	名	城	主	事	(文	獻)	関連文献
	520	18	江刺郡 江刺町	勝里	浅井	賀幡館	見沙門館	藤里字智福	外の沢	山城	丘陵、不明	木田、七地	高屋敷	葛原愛宕神社裏山。頂部平場跡。南方にのみ残る。北面は巾6mの壁郭2棟。	葛西の家臣及川極之助?													
	521	19				飯前館	飯前館														中田出雲?							
	522	20				岩清水館															高尾則氏?							
	523	21				高保城		米里字向木細工		山城	山城	丘陵、居城	鶴沼	高屋敷	西側方へ張り出す丘陵端部。幅2~2区域。西方1580×50m、東方は40×80m。	鶴原秀衡家臣門脇常利?												
	524	22				古林葉館				山城	山城	山頂	宍道	高屋敷	大前丸城上の山頂。東壁に幅1。頂部平場30×40m。南辺に沿って土塁1。その東北面下位に平場40×80m。南側250mの頂部。東船・南船・西船の三平場。各平場下位に帯郭1。(南船のもののみ腰あひでりと呼ばれる)。	藤原泰衡の臣吉田某?												
	525	23				山居越				山頂	山頂	古越	宍道	高屋敷	人見の裏山一帯。西二つのうち丘陵部分。東方に腰あひ。人見園に分かれ。金輪門。金輪橋150×250m。	河部重胤?												
	526	24				人首古館				城内	城内	丘陵	宍道	高屋敷	人首山の北に位置する丘陵端部。幅200×40m。北西の下位に帯郭1。南方下位に巾5m×長さ50mの平場1。南面にのびる丘陵底所。倒影に平場2。北は30×50m。幅200×70mの山頂。高屋敷平場約50m。	河野忠清?家臣。笠置神社?慶承11年造修済今夏奉。笠置がわれら。												
	527	25				人首城				坂本館	坂本	坂本	宍道	高屋敷	人首山の北に位置する丘陵端部。幅800×40m。北西の下位に帯郭1。南方下位に巾5m×長さ50mの平場1。南面にのびる丘陵底所。倒影に平場2。北は30×50m。幅200×70mの山頂。高屋敷平場約50m。	高屋敷												
	528	26				小田館				小里原	小里原	和山	宍道	高屋敷	小田館の南側。幅200×80m。南面に平場1。北は30×50m。幅200×70mの山頂。高屋敷平場約50m。	高田で詳細不明。セツアでは80×80m前後の平場ありし由来にのびる丘陵底所。倒影に平場2。北は30×50m。幅200×70mの山頂。高屋敷平場約50m。	葛西の臣佐野某?											
	529	27				川辺館				山城	山城	山城	宍道	高屋敷	小田館の南側。幅200×80m。南面に平場1。北は30×50m。幅200×70mの山頂。高屋敷平場約50m。	天正年間鷹田治馬												
	530	28				馬谷森館				玉里字玉崎	玉里	山頂	宍道	高屋敷	八幡館山の頂部西方。頂部に平場40×30m。	八幡館山の頂部西方。頂部に平場40×30m。	次丸道海入道?	天正中滅?										
	531	29				八幡館				長倉沢	長倉沢	山城	宍道	高屋敷	玉幡神社東北方の丘陵端部。西端に掘。頂部平場40×100m。東方下位に帯郭のもの。	玉幡神社東北方の丘陵端部。西端に掘。頂部平場40×100m。東方下位に帯郭のもの。	堺池入武臣?	天正18年没。										
	532	30								大松沢	大松沢	大森前	宍道	高屋敷	上崩尾野北方の山地。頂部平場40×35m。東側方に尾根を切る堀1。南方位下位に帯郭三段。	上崩尾野北方の山地。頂部平場40×35m。東側方に尾根を切る堀1。南方位下位に帯郭三段。	堺池石馬之允(江朝兵輔家老)?	堺池石馬之允(江朝兵輔家老)?										
	533	31								大森前	大森前	大森前	宍道	高屋敷	青野里家の江朝東中学校所。頂部平場30×80m。南方位下位に帯郭2段。西側方中敷に幅1。全規模100×150m。	大森森観音堂東方。開田され詳細不明。	萬西一族?											
	534	32								羽山城	羽山城	山城	宍道	高屋敷	月山神社西南方丘陵先端。頂部平場40×70m。西、南、東方位下位に巾4mの帯郭1。北端に掘1。	月山神社西南方丘陵先端。頂部平場40×70m。西、南、東方位下位に巾4mの帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	535	33								青峰館	青峰館	牛安館	宍道	高屋敷	小林集落の丘陵の先端。頂部平場30×50m。その周辺に土塁をめぐらす。南北に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	小林集落の丘陵の先端。頂部平場30×50m。その周辺に土塁をめぐらす。南北に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	536	34								梁川字大尻	梁川字大尻	丘陵、居城	山城	高屋敷	梁川中学校東方の丘陵。開田のため耕作不規かつては北側をめぐらす。南北に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	梁川中学校東方の丘陵。開田のため耕作不規かつては北側をめぐらす。南北に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	537	35								小林	小林	丘陵	宍道	高屋敷	梁川中学校東方の丘陵。開田のため耕作不規かつては北側をめぐらす。南北に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	梁川中学校東方の丘陵。開田のため耕作不規かつては北側をめぐらす。南北に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	538	36								小畠教	小畠教	中田館	宍道	高屋敷	小菜川館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	小菜川館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	539	37								野手城	野手城	高間館	宍道	高屋敷	蜂森館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	蜂森館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	540	38								小菜川館	小菜川館	健久館	宍道	高屋敷	中庭館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	中庭館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	541	39								高間館	高間館	中井館	宍道	高屋敷	向川字大尻の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	向川字大尻の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	542	40								蜂森館	蜂森館	健久館	宍道	高屋敷	向川字大尻の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	向川字大尻の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	543	41								中庭館	中庭館	向川目	宍道	高屋敷	石刻古館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	石刻古館の南側。東西に腰あひ。南方位下位に帯郭1。北端に掘1。	萬西一族?											
	544	42								間木館	間木館	古館	宍道	高屋敷	境内	境内	仙台藩大選士中村九平治?	天正19~寛文12?										
	545	43																										

地図 No.	行政変遷	明治 30	20	藩政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	地 名	城 主 等 (文 献)	
572 79	江戸郡 江戸町	田原	小田代	館ヶ森館	新山館 古	深山古館	鶴ヶ森館	丘陵、不明	木田 山林、烟 山境内	鷹国寺神方。開田のため詳細不明。かつて井 戸等があり。200m×100m 前後?	関連城館	
573 71	植原	食沢					樺瀬字内倉沢 下台	*	*	木田 山林、烟 山境内	新山神社西方丘陵。頂部は平坦なるも詳細不明。 新山神社がこののは帝朝か。 比叡200mの丘陵端部。東・西斜面。面積は1ha。西方に小 谷をつく。東・南・西の三方に趣。西に土塁。下位に櫓 郭をつく。北に土塁。下位に土塁 1 = 五十瀬神社北方の丘陵端部。100m×100mで 2部からなる。	安倍家臣?義西の臣小伏馬之允? 源賴義?
574 72	鶴羽衣帽				白旗城	白旗城	鶴谷子 下台	*	*	木田 山林、烟 山境内	詳細不明。	
575 73					方八丁	伊豆堂館	小倉沢 沼館	*	*	木田 山林、烟 丘陵、居城 平地、不明	一つの郭あり。西郭50×100m。東郭70×80m 中間に堀 1。西郭の北に堀 1。 水田化し。詳細不明。	
576 74					方八丁	方八丁	沼館 相原	*	*	木田 山林、烟 丘陵、不明	寛文年間中日長重 (大学) 榎500 石、北邊警備	
577 75						柏原館	佐野向	*	*	木田 山林、水田	伊達の臣。後藤折兵衛周宅 石門左近?	
578 76						佐野平館	神明館	*	*	木田 山林、水田	詳細不明だが、北と西に堀各 1。 頂部平場80×70m (円形) 下位に高郭 2段。 北に堀。門跡?	
579 77						兵部館	正樂寺台	*	*	木田 山林		
580 78						三眼	新田	*	*	木田 山林		
581 79						石闘		*	*			
582 80								*	*			

前 沢 町

地図 No.	行政変遷	明治 30	20	藩政	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	地 名	城 主 等 (文 献)
583 1	前沢町	生母	赤生津	赤生津城	東崩	生母字齐田	山麓 平地	水田、畠 水田	平場ほか。 詳細不明。		
584 2		前沢町	日日本	安信館	安信塚	樺置字安信館	水田				
585 3	白山	上麻生	大麻生野櫻	上麻生城	白山字内船	白山字内船	水田				
586 4	古城	小山	大麻生城	九郎館	小山城 小山古館	古城字南上野 小山古館	水田	丘陵邊郭式 平地	山林、烟 水田	平場ほか 詳細不明。	
587 5	中烟	古城方八丁	古城方八丁	白山六日入	白山合野	宿の前	水田				
588 6	白山	六日入	白鳥城	樺置方八丁	白鳥字白鳥館	白鳥字白鳥館	水田	丘陵邊郭式 平地	山林ほか 詳細不明。		
589 7	前沢町	白鳥	白鳥	白鳥城	白鳥字古瀬	白鳥字古瀬	水田				
590 8	古城	小山	宗角館	照井館	白鳥字照井館	白鳥字照井館	水田				
591 9	前沢町	白鳥	内職	西斎	生母字西斎	生母字西斎	山麓	平地邊郭式	水田、宅地 水田、宅地	水田、宅地 水田、宅地	
592 10	生母	母体	中烟	煙山館	古城字水上西	古城字水上西			*	*	
593 11	古城	中烟							*	*	

地図 No.	行	昭	30	明	20	藩	政	名	稱	別	格	所	在	地	形	式	現	状	遺	構	地	名	城	主	等	(文 獻)	関連城館
594 12	前沢町	古城	小山	八郎館	前沢城	前沢	前沢	古城字高代寺	前沢町字陣場	古城字高代寺	丘陵	▲	連郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
595 13	前沢町	前沢	小山	前沢城	前沢	前沢	前沢	古城字明後沢	古城字明後沢	古城字明後沢	丘陵	▲	連郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
596 14	古城	小山	小山	明後沢跡	六日入柵	六日入柵	六日入柵	白山字古城	白山字古城	白山字古城	丘陵	▲	平地連郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
597 15	白山	白山	白山	六日入城	新堀	新堀	新堀	白鳥字新城	白鳥字新城	白鳥字新城	丘陵	▲	丘陵	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
598 16	前沢	白鳥	生母	赤生津	羽場館	羽場館	羽場館	生母字羽場	生母字羽場	生母字羽場	山麓	▲	水田	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
599 17	生母	赤生津	生母	赤生津	羽場館	羽場館	羽場館	生母字羽場	生母字羽場	生母字羽場	山麓	▲	水田	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

金ヶ崎村

地図 No.	行	昭	30	明	20	藩	政	名	稱	別	称	所	在	地	形	式	現	状	遺	構	地	名	城	主	等	(文 獻)	関連城館
600 1	金ヶ崎町	水間	水間	水間	水間	水間	水間	安倍館	通天館	永楽字永徳山	山城	▲	丘陵連郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
601 2	百萬	大林城	大林城	百萬	百萬	百萬	百萬	西根	百萬城	百萬城	山城	▲	丘陵連郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
602 3	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	胡桃館	胡桃館	西根字白糸	山城	▲	段丘連郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
603 4	永岡	永岡	永岡	永岡	永岡	永岡	永岡	彌助館	彌助館	▲	山城	▲	段丘輪郭式	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
604 5	相去	相去	相去	相去	相去	相去	相去	道所森館	道所森館	水沢字御防下	山城	▲	水沢字御防下	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
605 6	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	金ヶ崎	鳥海橋	鳥海橋	六原字御所森	山城	▲	六原字御所森	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
606 7	三ヶ尻	八荒神	八荒神	八荒神	八荒神	八荒神	八荒神	花館	花館	西根字鳥の海	山城	▲	八荒神	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
607 8	三ヶ尻	八荒神	八荒神	八荒神	八荒神	八荒神	八荒神	新井田館	新井田館	八荒神	山城	▲	八荒神	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
608 9	百萬	百萬	百萬	百萬	百萬	百萬	百萬	花館	花館	三ヶ尻字川口田	山城	▲	三ヶ尻字川口田	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
609 10	金ヶ崎	西根	西根	西根	西根	西根	西根	細島城	細島城	永楽字九石	山城	▲	永楽字九石	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
610 11	永岡	永岡	永岡	永岡	永岡	永岡	永岡	松本館	松本館	西根字天森	山城	▲	永楽字天森	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
611 12	百萬	百萬	百萬	百萬	百萬	百萬	百萬	參臣館	參臣館	永楽字茶畠	山城	▲	參臣館	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
612 13	三ヶ尻	西根	西根	西根	西根	西根	西根	三ヶ尻館	三ヶ尻館	永楽字松木館	山城	▲	三ヶ尻館	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
613 14	五葉城	五葉城	五葉城	五葉城	五葉城	五葉城	五葉城	下館	下館	西根字櫻場	山城	▲	西根字櫻場	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
614 15	永治	永治	永治	永治	永治	永治	永治	明道館	明道館	永治字下館	山城	▲	永治字下館	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
615 16	下館	下館	下館	下館	下館	下館	下館	▲	▲	▲	山城	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
616 17	明道	明道	明道	明道	明道	明道	明道	▲	▲	▲	山城	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

胆沢町

地図 No.	行政 昭 30 明 20 漢 般	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	施 構	地 名	城 主 等 (文 献)	開 墓 館
617 1	胆沢町 南都田 郡鳥	要 害	止々井館	南都田字本木	平地、居館	佃、七地	境内	盛興、脚田	止々井四郎、または千葉四郎	2
618 2	南下轄	机地館		古城	*	居館	山林、畠	机地、平藏	機地、平藏	
619 3	郡鳥	広岡館		古岡	*	居館	山林、畠	飯坂出糸守(承応頃)	飯坂出糸守(承応頃)	
620 4	若柳	香取根前		若柳字新里	*	居館	山林、畠	伝及川天子代	千葉玄蕃亮角治(文明頃)	
621 5	若柳	山田城	山田屋敷	明神下	*	居館	山林、畠	新里角方(承応頃)	正福寺境内の150m四方。所々に土塁・堀の痕。	
622 6	新里	新里館	角方館 若柳方八丁	島塚	*	居館	山林、畠	水田	300×150mの範囲の所々に土塁・堀の痕。	
623 7	若柳	要害館		要害	*	居館	山林、畠	水田	開田のため詳細不明。南方に據らしい築。	
624 8	門ヶ城	門ヶ城		愛宕	*	居館	山林、畠	水田	推定規模80m四方。一部に土塁残存。	
625 9		鹿合館		鹿合	*	山頂、營	山頂、畠	水田	胆沢川の段丘上に、段状の3郭がある。	
626 10		猪の鼻館		市野々	*	平地、居館	山頂、畠	水田	比高70mの山頂、周囲に空堀、土塁がめぐる。	
627 11	小山	堺切		小山字下恩俗	*	平地	山頂、畠	水田	一辺100mの三角形。2郭あるが南郭は被焼、空堀・土塁が残る。	
628 12				思俗館 高田館 かっこう	*	方八丁	山頂、畠	水田	残丘状の台地と伝えられるが詳細不明。	
629 13				西 東 鹿 鷹 高 鳥 館	*	小山字櫛切久保 越、矢矧館	山頂、畠	水田	200×150m。東西の3郭。南方に盛り出しをもつ。	
630 14		高円館		高円館	*	軒骨	山頂、畠	水田	東西の2郭。東方に土塁、全体規模不明。	
631 15	施圖			武田館	*	居館	山頂、畠	水田	呼称はあるが詳細不明。	
632 16				大屋敷館	*	馬頭	山頂、畠	水田	一辺80mの激高地をいうが遺構は不明。	
					*				東館 萩屋敷 伝武田五郎城信 伝徳間御左エ門 馬場改め垣 云徳間御左エ門	東館 萩屋敷 馬場改め垣 云徳間御左エ門

川村衣

地図 No.	行 昭 30	政 明 20	変 藩 改	遷 上衣川	所 在 地	形 式	現 状	地 名	城 主 等 (文 部)	関連施設
633 1	衣川村	下衣川	接待館	上衣川字川東	平地	宅地	150×70 m がふ。北と南の郭に土塁様のもの。 衣川橋路の南、泉ヶ館跡の西、詳細不明。	川端	伝秀義母邸所 貞任の庶兄成道	
634 2			焼壁櫓	下衣川	※	山林	小松櫓対岸の700×200 m の平場、遺構不明。 並木前			
635 3			衣川櫓	並木屋敷	※	畠、宅地	衣川と小成川の中間に約120×40 m の平場。小松 櫓擬定地。			
636 4			小松櫓	小松館 北面	※	水田	衣川の右岸の80×60 m の平場。土塁と堀の痕 跡あり。	館代	安倍重任	
637 5			船代館	船代館	※	畠、宅地	100×100 m の地をいうが詳細不明。 北院川の右岸の40×50 m の平場。北と東に空 堀。	古館	安倍氏	
638 6			向 郡	向 郡	※	高田	比高60 m、2 郭からなり周間に腰郭をもつ。 大森山の東側の30×60 m 。中央に堀跡のある 平場。	館		
639 7			古 郡	上衣川字古戸	※	山林	20×30 m の平場であり、標高30 m 。	丘陵	伝秀義の物見台、烽台	
640 8			安倍新城	安倍館	※	石神				
641 9			大森館	大森館	※	大森				
642 10			桜形森陣場	陣馬館	下衣川字日向	丘陵				

市閑一

地図	No.	行政変遷	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	遺 構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連資料
654	12	一関市 明治20年藩政	遠矢館	古館	山口	単郭	空堀、土塁		千葉八右衛門	不明	
655	13	一関市 五井	五井城	五井館	* 山口	圓郭	空堀		千葉八右衛門	不明	
656	14		抗丁館	高館	* 五井	圓郭	土塁、表面にあまり特徴がみられない。		小岩入膳重光(風土記)	(古城書上)	
657	15	赤浜	赤浜城	田高館	赤浜町字上野	圓郭	空堀		葛西一家(風土記)	葛西氏(森莊系図)	
658	16		宮田館	赤浜城	日光館	* 宿	空堀		津和義の陣所(風土記)		
659	17		宮田館	中条館	* 宮田	圓郭	空堀		宮田	宮田	
660	18		若宮館	伏牛城	* 中条	圓郭	空堀		泥田山下	泥田山下	
661	19		伏牛城	伏牛城	山日字紫畠	邊郭	学校	平場のみ	小岩駒河(*)		
662	20	中里	中里城	阿部沢館	* 中里	橢郭式	山林、畠	基部に空堀	小野寺修理(*)		
663	21		小石名沢館	古	* 三反田	邊郭	山林、畠	不明、規定地。	萬葉臣千葉下野(*)		
664	22	一関	一関城	高崎城	一関市鈴山	圓郭	山林	空堀、虎口。	小野寺伊賀、伊達兵部(*)		
665	23	三關	三關城	白崎城	三關字白崎	邊郭	山林	基部に空堀、土塁	留守牧養(古城書上)	千葉内藤(風土記)千葉五郎三郎(風土記)	
666	24		前堀	前堀城	前堀南白幡	邊郭	山林	不明、規定地。	萬葉臣千葉太郎左衛門(風土記)	千葉内藤(風土記)	
667	25		狐樺寺	狐樺寺城	狐樺寺字久田	邊郭	山林	空堀、土塁、土礆道。	黒泥後養任(古城書上)	黒泥後養任(古城書上)	
668	26	下黒沢	下黒沢	秋野館	秋野	橢郭	山林	空堀、土塁、土礆道。	小岩越中守小性(風土記)		
669	27		金ヶ沢城	片平館	金ヶ沢	橢郭	山林	基部に空堀。	秋葉		
670	28		上黒沢城	片平館	* 銚ヶ沢	道筋數	道筋數	記録保存。	不明		
671	29		上黒沢	小姓館	* 上黒沢	圓郭	山林	空堀、大手口。	小岩越中守(古城書上)	(風土記)	
672	30		真紫	西館	* 上黒沢	圓郭	山林	空堀。	小岩越中守小性(風土記)		
673	31		真紫	西館	真紫字西館	邊郭	山林	空堀。	小岩越中守黒沢より拠え(風土記)	(風土記)	
674	32		真流	下要吉城	* 内ノ目	圓郭	山林	空堀。	細谷近工(風土記)		
675	33			要吉城	* 細田	圓郭	山林	空堀。	千葉左近行監明潤(大垣系図)		
676	34		牧沢城	内野日館	* 真流字継下	圓郭	山林	空堀。	千葉左近行監明潤(大垣系図)		
677	35		楊生	内野日館	* 津畠	圓郭	山林、神社	帶郭が述る。	千葉清泰		
678	36		楊生新城	宝館	* 茂子沢	圓郭	山林、畠	帶郭。	千葉清泰		
679	37		富沢	古館		圓郭	山林、畠	空堀。	不明	不明	

地図 No.	行政変遷	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連館
取 30 明 20 濱 政	一関市	伊奈	富沢	郷 館	富沢城 上ノ城 奈良井城 西の目館	跡	跡	平場のみ。	若瀬民部(古城書上) 富沢後次郎(越西真記録)	
680 38								基部に空堀、階段状に平場。	内ノ目	
681 39								木田	不明	
682 40								木田	舞草利匠(古城書上、風土記) 佐々木左衛門吉五郎(古城書上) 佐々木左衛門四郎(風土記)	
683 41								木田	。	
684 42								木田	中島	
685 43								木田	中島	
686 44								木田	小屋野勇闘	

平 泉 町

地図 No.	行政変遷	名 称	別 称	所 在 地	形 式	現 状	現 状	構	地 名	城 主 等 (文 献)	関連館
687 1	昭 30 明 20 濱 政	長島村	佐藤堅數	佐司屋敷	丘陵、居館	丘陵、居館	丘陵のみ、池跡といわれる狹い溝み。	中館、保日堂	佐藤莊司、古代末、「平泉史」		
688 2			長惣館		山頂、居城	山頂、居城	主郭(105×35m)、東西に長い、北に土塁と堀がしらないうがさる。その北にさくら木の平場。	中館	長部兵部大夫、中世末、「風土記」		
689 3			道経館	西 館	山麓、居城	山麓、居城	3段の平場、井戸、東山頂に見残り状の平場。	千葉長門、中世末、「風土記」	千葉家、中世末、「古城書上」「風土記」		
690 4			二反田館	内 篦	丘陵、居城	丘陵、居城	主郭(90×80m)、南北に土塁と堀があり。土器は不良、主郭(90×80m)、東と西に残存状況は不良、主郭(90×80m)、東と西に残存状況は不良、主郭(90×80m)、東と西に残存状況は不良、主郭(130×120m)。	月館	月館、鎌庭、青		
691 5			月 館	月 館	月館	月館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(130×120m)。	月館	月館、鎌庭、青		
692 6			小島村	西館、古館	須崎	須崎	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(130×100m)。	月館	月館、鎌庭、青		
693 7			猪岡館	東 城	古館	古館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
694 8			小島館	古 館	古 館	古 館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
695 9			平泉村	戸河内村	古 館	古 館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
696 10					伊能館	伊能館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
697 11					達谷館	達谷館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
698 12					泉ヶ城	泉ヶ城	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
699 13					柳原櫛	柳原櫛	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
700 14					関山館	関山館	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		
701 15					辯慶屋敷	辯慶屋敷	南北に長い丘陵に土塁が3本、南に堀があつたことからわかる平場、主郭(150×140m)。	月館	月館、鎌庭、青		

舞草利匠(古城書上、風土記)
佐々木左衛門吉五郎(古城書上)
佐々木左衛門四郎(風土記)

小屋野勇闘
五輪塔は辨慶の墓と言われる。
古代末、「風土記」「平泉史」

町家花

地図 No.	行 数	度 数	実 測	名 稱	別 称	所 在 地	形 式	現 状	構 造	地 名	城 主 等 (文 獻)	関連城館
724 7	花泉町	永井	東永井	青葉山城	東永井館	永井字角尾	山城	山林	*	照井次郎	12	
725 8		西永井	西永井	高倉城	西永井館	西永井字麿	*	*	山林、畠	菅原春祖	11,14	
726 9				西永井館	西永井館	西永井字麿	*	*	山林、畠	菅原春祖	7,13	
727 10				長崎櫻	長崎櫻	長崎櫻	*	*	山林、畠	菅原道弘	12,14	
728 11				麻生沢館	麻生沢館	麻生沢	*	*	山林、畠	菅原道弘	内ノ日	
729 12				釣野館	釣野館	鶴の鉢	*	*	山林	菅原道義	11,14	
730 13				高崎館	高崎館	下館	*	*	山林、畠	菅原長友	7,10	
731 14				晴之中山櫻	晴之中山櫻	晴の中	*	*	山林	菅原道正	12	
732 15				大塙館	大塙館	鷲の越	*	*	山林	大塙高輔		
733 16				臨ノ田館	臨ノ田館	鷲の越	*	*	山林	佐々木安定信		
734 17				船島	船島	西館	*	*	山林	千葉右馬亮定		
735 18				油田	油田	下油田	*	*	山林	30		
736 19				上油田	上油田	竹の下館	*	*	山林			
737 20				要苦	要苦	要苦	*	*	山林	道藤主計		
738 21				鷲島	鷲島	猪岡館	*	*	山林			
739 22				花泉	花泉	清水館	*	*	山林	清水清秀		
740 23				奈良坂	奈良坂	二桜館	*	*	山林	奈良坂大次平家重		
741 24				奈良坂	奈良坂	奈良坂	*	*	山林	佐藤信定	28	
742 25				花泉	花泉	高森館	*	*	山林	金森内體定利	27	
743 26				中村	須崎館	中村	*	*	山林	寺崎石見守折念僧、菅原院		
744 27				老松	老松	杉屋數館	*	*	山林	及川重俊		
745 28				男根	男根	花沢館	*	*	山林	長浜伊勢		
746 29				鮮	鮮	家館	*	*	山林	千葉胤資	35,36	
747 30				日形	日形	本丸館(前館の東。)	*	*	山林	岩瀬美作	35,36	
748 31				老松	老松	日形字通	*	*	山林	菅原与德左エ門	34,35	
749 32						老松字幹沢	*	*	山林	菅原与德左エ門	37,38	